

Table of Contents	1
1.1 ご使用前の感謝状	4
1.2 当マニュアルの特色	5
1.3 安全上の情報	5
Chapter 2 Introduction to This Motherboard	6
2.1 マザーボードの外見は?	6
443	6
2.2 仕様	7
2.3 構成図	8
Chapter 3 Hardware Installation	9
3.1 クイック・インストール手順	9
3.2 インストールのために知っておくべきこと	10
CPUをインストールする	10
CPUクーラーをインストールする	11
CPUとシステムファンをインストールする	14
メモリーモジュールをインストールする	15
IDEとフロッピーケーブルを接続する	16
前面パネルケーブルを接続する	17
ATX電源ケーブルを接続する	18
3.3 他のインストール参照情報	19
CPU電圧とクロック数の設定	19
シリアルATAを接続する	20
PCI express x16 グラフィックスロットに接続する	21
PCI Express x 1スロットに接続する	23
IrDAを接続する	24
デュアルギガビットLANをサポート	25
USB2.0に接続する	26
1394に接続する	27



スーパー7.1チャンネルオーディオ効果	28
前面オーディオを接続する	29
CD_INに接続する	30
COM1/COM2に接続する	31
Case Openに接続する	32
S/PDIF (Sony/Philipsデジタルインターフェイス)を接続する	33
PS2キーボードに接続する	34
色分けされた後部パネル	35
LED表示	36
3.4 ジャンパー設定	37
Chapter 4 Special Features and Utilities	38
4.1 RAID (Redundant Array of Independent Disks)	38
RAID BIOS設定ユーティリティ	38
4.2 他の便利な機能	42
Chapter 5 Setting BIOS	43
5.1 紹介	43
5.2 Phoenix-Award™ BIOS設定プログラムの使い方	44
5.3 BIOS設定への入り方	44
標準的なCMOS機能	45
高度なBIOS機能	47
高度なチップセット機能	49
統合された周辺機器	51
パワーマネジメント設定	56
PNP/PCI構成	58
Silent BIOS/HW Monitor	59
クロック/電圧コントロール	60
設定デフォルトをロードする	61
ターボデフォルトをロードする	61
パスワードを設定する	62



設定を保存して終了する	62
設定を保存せずに終了する	62
EEPROMデフォルトをロードする	62
EEPROMデフォルトを保存する	62
著作権	62
5.4 Windows環境でのBIOSアップグレード	63
5.5 Vivid BIOSテクノロジー	65
Chapter 6 Installing Drivers	66
6.1 ドライバーをインストールする	67
6.2 ユーティリティをインストールする	68
Chapter 7 Troubleshooting	69
Chapter 8 Technical Support	70
型式名とBIOSバージョン	71
お買い上げのマザーボードの登録	71
Technical Support	72

1.1 ご使用前の感謝状

まず初めに、AOpen製品をご購入くださり厚くお礼を申し上げます。当マザーボードは皆様のあらゆるニーズに合うよう、私たちの持つ優秀な設計能力を駆使し、品質のために尽力を傾け設計されました。

このマニュアルは当マザーボードのインストールの仕方を紹介しています。今後の参考として保管してください。印刷されたマニュアルをなくされた場合は、最新のファイルをダウンロードするためにウェブサイト<http://www.aopen.com>にアクセスしてください。

それでは、このユーザーフレンドリーなマニュアルとAOpenが提供するパワフルな機能のすべてを個人的に経験なさるようお招きいたします。

AdobeとAcrobatのロゴはAdobe Systems Incorporatedの登録商標です。

AMD, AthlonそしてDuronのロゴはAdvanced Micro Devices, Inc.の登録商標です。

Intel, Intel Celeron, Pentium II, III, Pentium 4そしてPentium MareのロゴはIntel Corporationの登録商標です。

nVidiaのロゴはnVidia Corporationの登録商標です。

Microsoft, Windowsのロゴはアメリカ及び他の国々におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

当マニュアルで言及されている製品のタイトルや商標は解説上の便宜を目的としており、それぞれの企業によって所有されています。

使用上の標準やそれに関連する情報に関わる変更について提供できないことを遺憾に思います。AOpenは当マニュアルの内容について変更や修正を加える権利を留保しています。商品に関わる点も含むいかなる誤記について、AOpenは保証や義務を負うものではありません。

当文書は会社を保護し全ての権利を留保するための著作権法に基いています。

AOpenからの正式な文書での許可がない限り、どのような状況であれ、本冊子をいかなる種類に複製することも、データベースや媒体に取り込むことも許されていません。

1996-2004 Copyrights, AOpen Ltd. 版權所有。

1.2 当マニュアルの特色

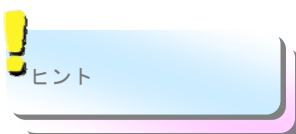
当マザーボードの便利な情報や知っておくべき特定の状況を把握するために、以下のアイコンがしばしば出てきます：



組み立ての過程で知っておくべき知識や役立つヒントを含んでいます。



このマークを見たら注意して下さい。組み立て中によく起きるミスや注意すべき点を強調しています。



このヒントはインストールをスムーズに行うために役に立つ情報を教えてくれます。

1.3 安全上の情報



コンポーネントを扱う前に、リストストラップを着用しユニットの金属部分に触れてください。別の方法としては、アースされた物体に触れるか、その金属面に触れてください。



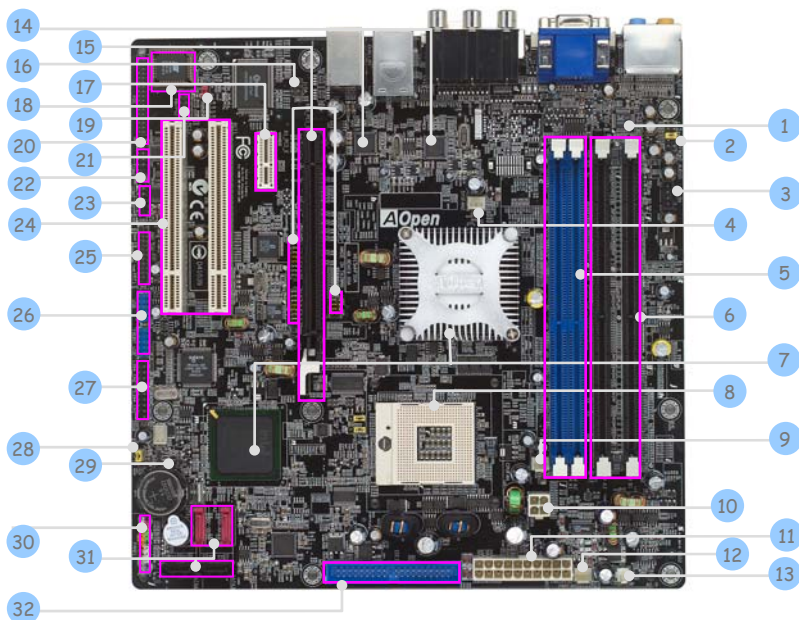
ジャンパー設定の前には常に電源を抜いてください。



マザーボード上のコンポーネントをインストールしたり外したりする前には、最初に電源を外し、マザーボードや他のコンポーネントにダメージを与えないようにして下さい。

2章 当マザーボードの紹介

2.1 マザーボードの外見は？



1. オンボードAzalia CODEC	17. PCI Express x1 Slot
2. 前面オーディオコネクタ	18. DieHard BIOS Lite
3. CD_INコネクタ	19. JP28 PS2 KB/マウスウェイクアップジャンパ
4. SYSFAN2	20. FDDコネクタ
5. 184ピン DIMMs x 2 (DDR)	21. PS/2キーボードコネクタ
6. 240ピン DIMMs x 2 (DDRII)	22. COM2コネクタ
7. Intel 915GM/ICH6-Mチップセット	23. COM1コネクタ
8. Intel Pentium M CPU をサポートする479ピン CPUソケット	24. 32ビット PCI 拡張スロット X 2
9. CPUFANコネクタ	25. パラレルポートコネクタ
10. 4-pin 12V ATX電源コネクタ	26. USB 2.0コネクタ X 2
11. ATX電源コネクタ	27. IEEE 1394コネクタ X 2
12. PWRFANコネクタ	28. JP14 CMOSデータクリアジャンパ
13. 電源温度コネクタ	29. Case Openコネクタ
14. Dual Marvell Gigabit LAN	30. 前面パネルコネクタ
15. PCI Express x16 Slot/Enable Jumper	31. Serial ATAポート X 2, Serial ATAIIポート X 2
16. IrDAコネクタ	32. IDEコネクタ x 1

2.2 仕様

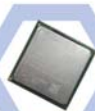
お手持ちのマザーボードの主要な機能です。

型式	I915GMm-HFS
CPU	Intel Pentium M (DothanとBanias) CPU Socket 479 533MHz
チップセット	Intel 915GM/ICH6-M
メインメモリー	Single Channel DDR DIMM x 2, DDR333 Dual Channel DDRII DIMM x 2, DDRII400/DDRII533 DIMMタイプ : 256/512MB & 1GB 最大メモリー : 2GB
グラフィックス	チップセットに一体型のVGAエンジン (Intel GMA 900) PCI Express x 16 グラフィックススロット
IDE	一体型のATA100とSerial ATAコントローラー Silicon Image Serial ATAII コントローラー (Raid 0, 1をサポート) 最大ディスク : 144,000,000GB [48ビットLBA仕様による]
LAN	Dual Marvell Gigabit PCI Express LANチップ
サウンド	7.1チャンネル以上の Dolby Sound SystemをサポートするAzalia Codecオンボード
USB	チップセットと一体型, USB 2.0 x 8
IEEE 1394	Agere 1394 コントロールチップ
スロット	PCI Express x16 グラフィックススロット x 1 PCI Express x1 スロット x 1 PCI スロット x 2
後部パネル I/O	USB ポート x 4, LAN ポート x 2 VGA ポート x 1, DVI ポート x 1 標準ビデオポート x 1 D ビデオポート x 1 (D1, D2, D3, D4) YPbPr ビデオポート x 1 ライン入力 / S/PDIF入力 x 1 スピーカー出力 x 1, マイク入力 x 1 後部 SUR / S/PDIF出力 x 1 中央/サブウーハー x 1, 側面 SUR x 1
オンボードコネクタ	フロッピードライブコネクタ x 1 IDEチャンネル: ATA100 x 1 プリンターコネクタ x 1 Serial ATA チャンネル x 2 Serial ATAII チャンネル x 2 前面パネル x 1 前面オーディオ x 1 前面 USBコネクタ x 1 CPU FAN x 1 システム FAN x 1 電源 FAN x 1 電源温度コネクタ x 1 Case Openコネクタ x 1 CD_IN x 1 IrDA x 1 COM1 x 1 COM2 x 1 IEEE 1394 x 2 USBコネクタ x 1
BIOS	Award PnP 4Mb Flash ROM BIOS
ボードサイズ	244 mm x 244 mm

3章 ハードウェア・インストール

3.1 クイック・インストール手順

1. CPUをインストール



12. ドライバーとユーティリティをインストールする



2. CPUファンとシステムファンをインストール



11. OSをインストール (例: Windows XP)



3. メモリーモジュールをインストール



10. BIOS初期値をロードし、CPUクロック数を設定



4. HD, CD-ROMとSATAディスク他をインストール



9. 後部パネルポートを接続



5. 前面パネルケーブルに接続



8. 他のデバイスをインストール (USB, 前面オーディオ, etc)



6. ATX電源ケーブルに接続



7. PCI Express x16 グラフィックスカード、PCI Express x1 カード、PCI カードをインストール

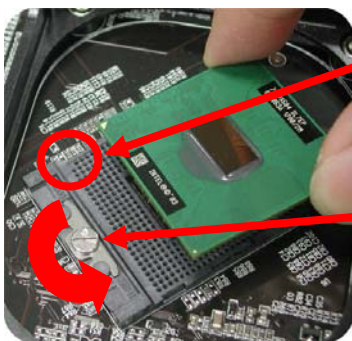


3.2 インストールのために知っておくべきこと

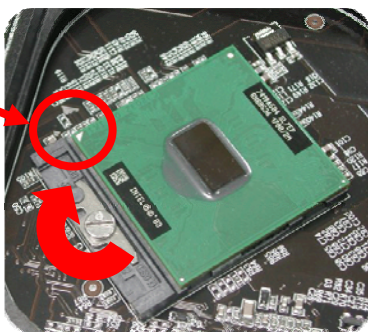
CPUをインストールする

このソケットはIntelが開発した最新のCPUパッケージであるuFCPGAとuFCBGAパッケージCPUをサポートしています。他の形状のCPUパッケージは納まりません。

1. 反時計回りにソケットねじを回して外す。
2. ソケットの1番ピンを確かめ、CPU上部にある金色の矢印を探す。1番ピンと金色の矢印を合わせる。次にCPUをソケットに差し込む。
3. CPUを締めるためにCPUソケットねじを時計回りに回して固定する。



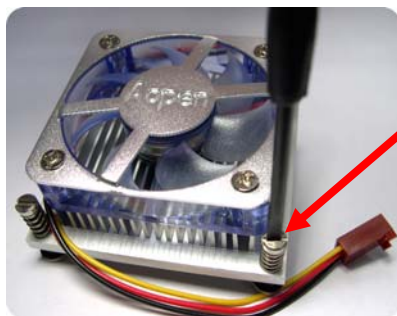
金色の矢印



CPUクーラーをインストールする

当マザーボードにはAOpenが設計した特別なCPUクーラーが付属しています。CPUクーラーのインストールについては以下の手順に従ってください。

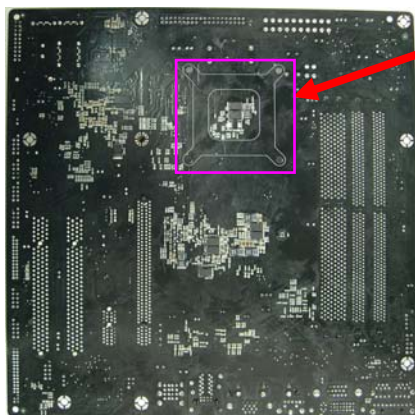
1. CPUクーラーの底部にサーマルペーストを塗ってください。



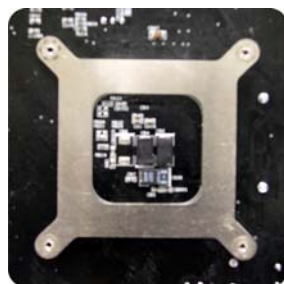
CPUクーラーの後部
パネルを外す



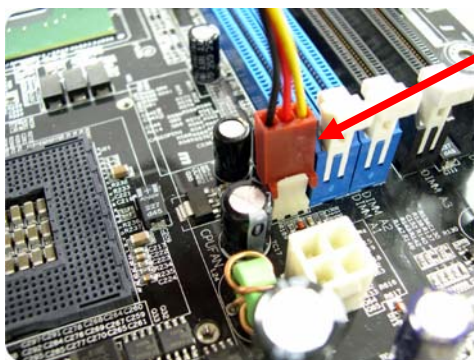
2. CPUクーラーの後部パネルをマザーボードに優しく戻す。



後部パネルをここに戻す



3. クーラーのファン電源ケーブルCPUFANコネクタに接続する。



CPUFAN
コネクタ

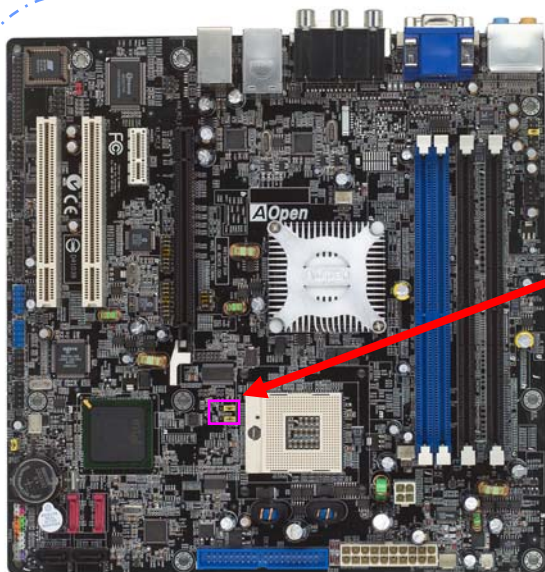
4. マザーボードにCPUクーラーを戻す。押し込んでから、穴にねじ止める。



穴にねじ止める



5. CPUのジャンパーを調整する。



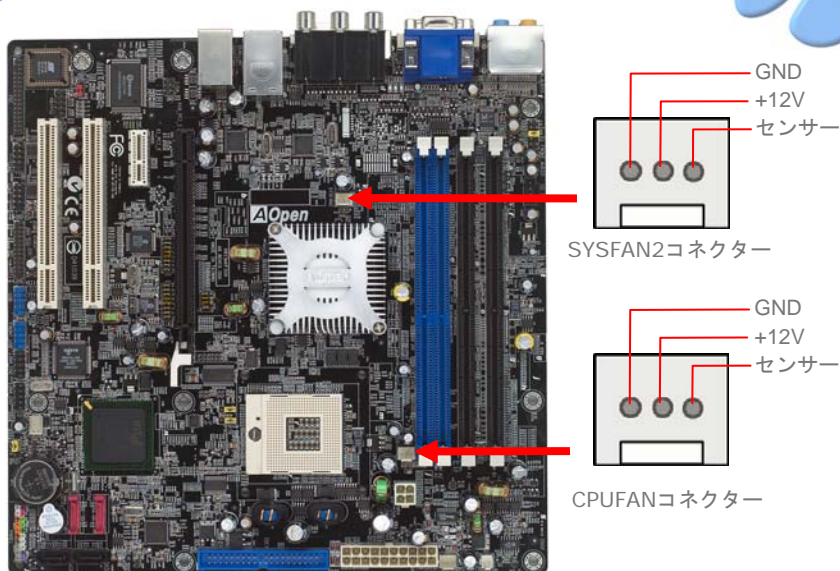
前面バスクロック

- | | | |
|--------|--|------|
| 1 | | JP78 |
| 400Mhz | | |
| 1 | | JP90 |
| | | |
| 1 | | JP78 |
| 533Mhz | | |
| 1 | | JP90 |



CPUとシステムファンをインストールする

CPUファンケーブルを3ピンCPUFANコネクタに接続します。もしケースにファンがあれば、SYSFAN2コネクタに接続できます。

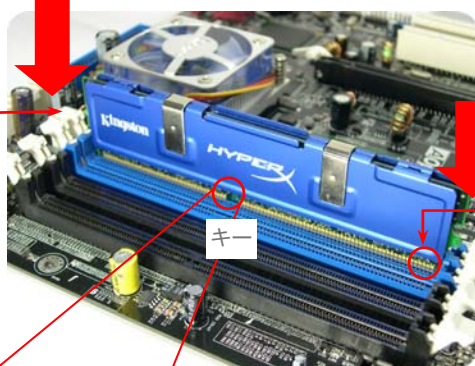


メモ: CPUファンの中にはセンサーピンがないものがあるため、その場合はファンのモニターをサポートできません。

メモリーモジュールをインストールする

DDRII スロットは黒色、DDRスロットは青色に設計されています。モジュールを両手でまっすぐに DIMMスロットに挿入し、DIMMモジュールがしっかりと固定されるまで押し込んでください。

タブ



1番ピン

キー



メモ: DIMMスロットのタブは DIMMがスロットの底部に接触したときに、DIMMを固定するために持ち上がります。



メモ: DDR DIMMが一つしかない場合は、CPUに近い最初の DIMMスロットに差し込んでください。

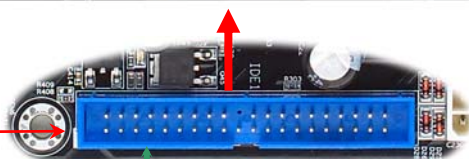
IDEとフロッピーケーブルを接続する

25ピンのフロッピーケーブルと40ピンか80ワイヤーIDEケーブルをフロッピーコネクタとIDEコネクタに接続します。1番ピンの向きに注意してください。向きを間違えるとシステム損傷の原因になります。



1番ピン

FDDコネクタ



1番ピン

プライマリー
スレーブ (2)

プライマリー
マスター (1)

ATA 33/66/100 IDEコネクタ

前面パネルケーブルを接続する

電源LED、スピーカー、リセットスイッチコネクタを対応するピンに取り付けます。BIOS設定の“サスペンドモード”の項目を有効にすると、システムが“サスペンドモード”になっている間、ACPI & Power LEDが点滅します。

ATXケースの電源スイッチケーブルを確認してください。ケースの前面パネルの2ピンのメスのコネクタです。このコネクタをSPWRと記されたソフトパワースイッチコネクタに接続します。

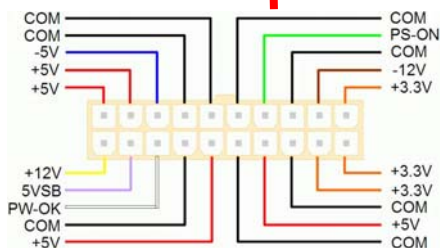
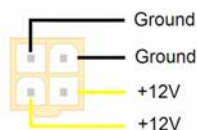


1		
NC		Power Switch
NC		GND
+5V		Power LED-
HDD LED		GND
HDD LED		Power LED+
+5V		NC
+5V		GND
GND		GND
NC		RESET
SPEAKER		GND

Front Panel Connector

ATX電源ケーブルを接続する

当マザーボードには下に示されているように、20ピンと4ピンのATX電源コネクタがあります。正しい向きで差し込んでください。20ピンコネクタを差し込む前に4ピンコネクタを差し込んでおかれるよう強くお勧めします。



3.3 他のインストレーション参照情報

CPU電圧とクロック数の設定

CPUコア電圧の設定

当マザーボードは電源オン時にCPU電圧を自動的に検出する電圧ID (VID)機能をサポートしています。

CPUクロック数の設定

当マザーボードはCPUジャンパレス設計で、CPUクロック設定はBIOSの中で1MHzずつのCPUオーバークロック機能を通して行います。**CPUコアクロック = CPUエクスターナル フリクエンシー x CPU レシオ**。ただし、現在市場に流通するCPUは“倍率固定”、すなわちユーザーによるCPUレシオは調節不可能で、オーバークロックにはCPU FSBクロックのみが調節可能です。

(オーバークロックは自己責任の元行って頂きますようお願い致します。)

BIOS設定 > クロック / 電圧制御 > CPUバスクロック

CPU レシオ	4x, 7x... 17x, 18x, 20x
CPU FSB (マニュアル調整)	FSB = 100MHz - 400MHz、1MHz ずつの CPUオーバークロックによる

プロセッサ番号	アーキテクト	クロック速度	前面バス	キャッシュ	レシオ
Pentium M 770	90nm	2.13GHz	533MHz	2MB L2	16x
Pentium M 760	90nm	2.00GHz	533MHz	2MB L2	15x
Pentium M 750	90nm	1.86GHz	533MHz	2MB L2	14x
Pentium M 740	90nm	1.73GHz	533MHz	2MB L2	13x
Pentium M 730	90nm	1.60GHz	533MHz	2MB L2	12x
Pentium M 765	90nm	2.10GHz	400MHz	2MB L2	21x
Pentium M 755	90nm	2.00GHz	400MHz	2MB L2	20x
Pentium M 745	90nm	1.80GHz	400MHz	2MB L2	18x
Pentium M 735	90nm	1.70GHz	400MHz	2MB L2	17x
Pentium M 725	90nm	1.60GHz	400MHz	2MB L2	16x
Pentium M 715	90nm	1.50GHz	400MHz	2MB L2	15x
Pentium M 705	130nm	1.50GHz	400MHz	1MB L2	15x
Celeron M 370	90nm	1.50GHz	400MHz	1MB L2	15x
Celeron M 360	90nm	1.40GHz	400MHz	1MB L2	14x
Celeron M 350	90nm	1.30GHz	400MHz	1MB L2	13x
Celeron M 340	130nm	1.50GHz	400MHz	512KB L2	15x
Celeron M 330	130nm	1.40GHz	400MHz	512KB L2	15x

メモ：CPUのスピードは急速に変化するため、このインストレーション・ガイドを手にする時点ではより高速のCPUがあるかもしれません。この表は参照のためのものです。



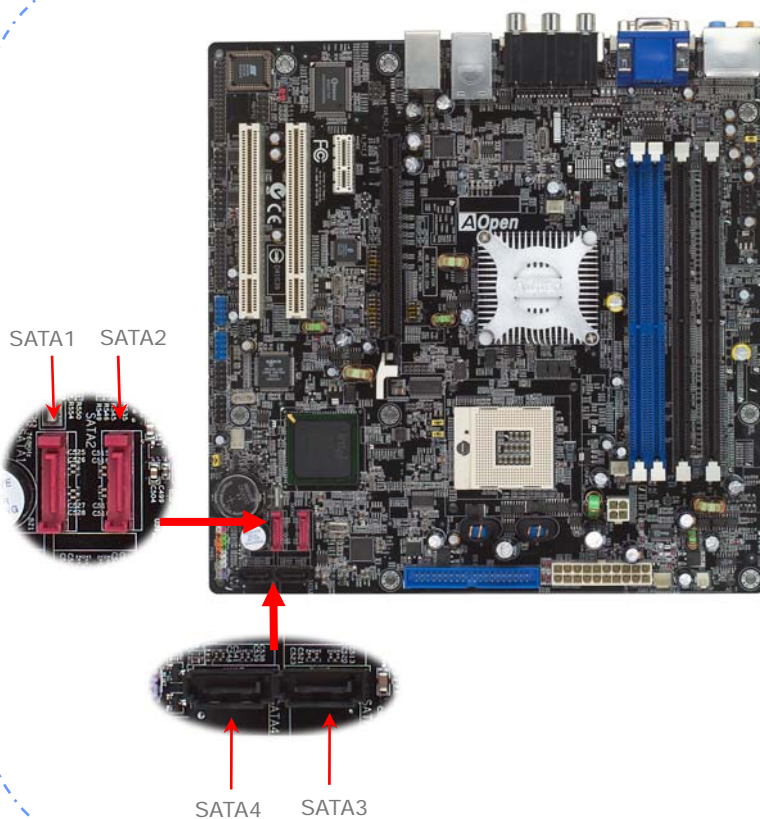
警告：Intel 915GMチップセットは最大533MHz (133MHz*4)のシステムをサポートしています。クロック設定を高くすると深刻なシステム損傷を起こすかもしれません。

シリアルATAを接続する

シリアルATAディスクを接続するために、7ピンのシリアルATAケーブルが必要です。シリアルATAケーブルの両端をマザーボード上のシリアルATAヘッダーとディスクに接続します。他の従来のディスクのように、電源ケーブルも接続します。ジャンパーレスであることに注意してください。マスターがスレーブディスクを定義するためにジャンパーを設定する必要はありません。シリアルATAハードディスクがシリアルATAポートにインストールされているときは、自動的にポート0(SATA1)に接続する方が最初に起動するブートデバイスになります。

**メモ1: SATA1とSATA2はホットプラグ機能をサポートしていません。
SATA3とSATA4はホットプラグをサポートしています。**

**メモ2: SATA1とSATA2はSATA Iをサポートしています。
SATA3とSATA4はSATA IIをサポートしています。**

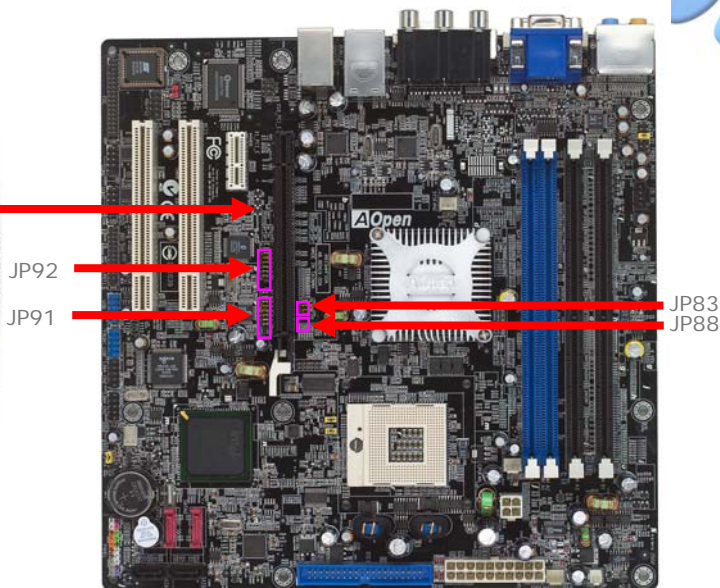


PCI express x16 グラフィックススロットに接続する

当マザーボードはPCI Express x 16グラフィックススロットを提供します。これはマザーボード上に最新のPCI Express x 16仕様を持つ黒色のスロットです。PCI Express x 16は高品質の3Dグラフィックスをターゲットにしたバス・インターフェイスです。従来は、AGPが8X AGP用の66MHzクロックの最盛期と後退期の両方で使用され、データ転送率は2.1GB/sに達しました。現在PCI Express x 16はさらに早いデータ転送率へと進歩し、8.0GB/s (250MB/s x 16 x 2、各方向に4.0GB/sです)までにアップグレードされました。



PCIex16

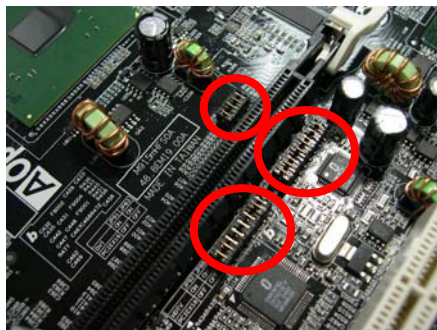


	JP92	JP88
HDTV	On	On
PCIeX16	Off	Off

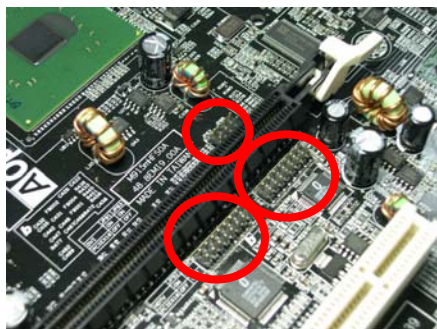
	JP91	JP83
DVI	On	On
PCIeX16	Off	Off



ユーザーがPCI Express x 16グラフィックスを挿入する場合は、PCIex16スロット脇のジャンパーを外さなければなりません。



ジャンパーを外す

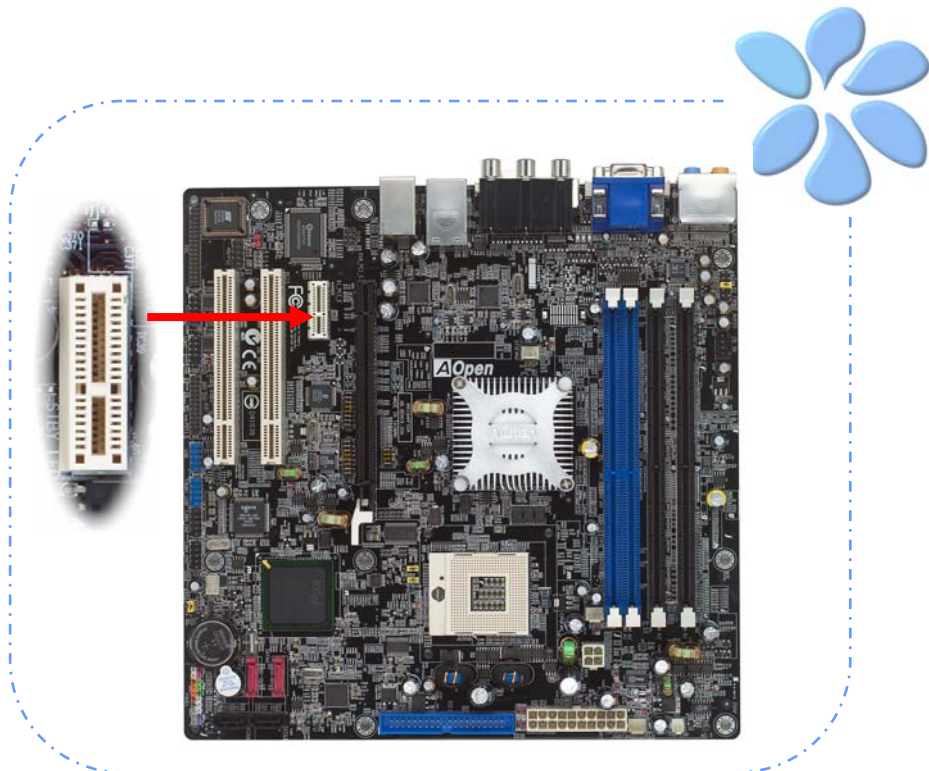


警告：ユーザーがジャンパーを外さない場合は、システムを不安定にさせる可能性があります。



PCI Express x 1 スロットに接続する

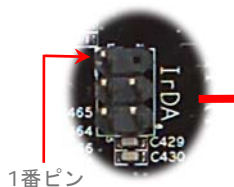
当マザーボードはPCI Express x 1 スロットを一つ提供しています。これはPCI Express x 16 と従来のPCI スロットの間に位置します。現状と今後のプロセッサに同調するために、PCI Express x 1 はより広域なI/O バンド幅を提供します。転送データ率は500MB/s を達成しました。これは従来のPCI 2.2 のデータ転送率のほぼ4倍に迫っています。好みに応じてどのようなPCI Express x 1 デバイスでもスロットにインストールできます。



IrDAを接続する

IrDAコネクタはワイヤレス赤外線モジュールをサポートするように設定できます。このモジュールとLaplink、Windows Direct Cable Connectionのようなアプリケーションを使って、ユーザーはファイルをラップトップ、ノートパソコン、PDA装置やプリンターに転送できます。このコネクタはHPSIR (115.2Kbps, 2 meters)とASK-IR (56Kbps)の両方をサポートしています。

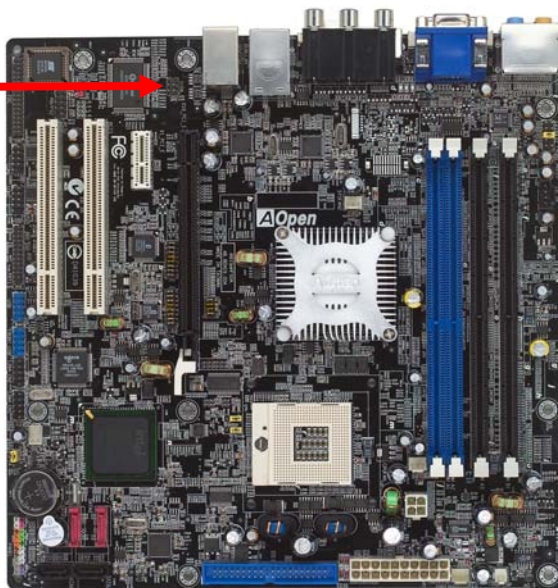
赤外線モジュールをIrDAコネクタにインストールし、BIOS設定のUARTモードから赤外線機能を有効にすると、この機能を使用できます。IrDAモジュールを差し込むときは、正しい向きに差し込んでいることを確認して下さい。



1番ピン

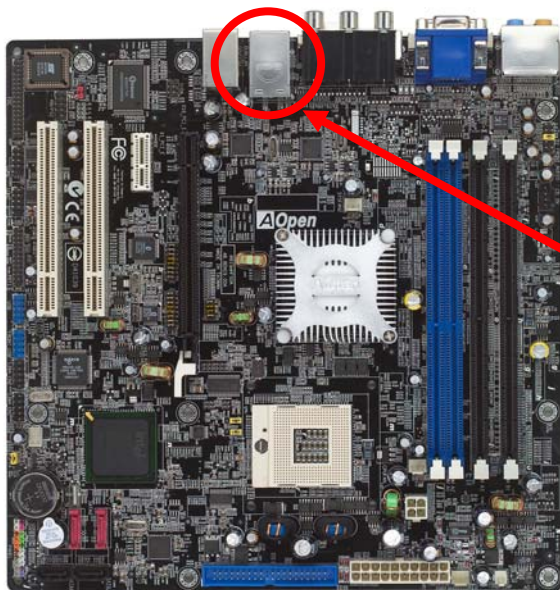
1	NC	KEY
	+5V	GND
	IR_TX	IR_RX

IrDAコネクタ



デュアルギガビットLANをサポート

オンボードのデュアルギガビットLANコントローラーの強度については、当マザーボードはオフィスと家庭の用途のため10/100/1000Mbps Ethernetを提供しています。Ethernet RJ45コネクターはUSBコネクターのトップに位置しています。右側のLEDはリンクモードを示していて、ネットワークとリンクされていると黄色に点灯します。左側のLEDは転送モードを示していて、データが100Mbps（10Mbpsだと点灯しない）で転送されていると緑に点灯します。しかしギガビットモードで転送されているとオレンジに点灯します。この機能をオン・オフにするにはBIOSを通して調整してください。LANの起動機能をオンにするには、BIOSの“Power Management Setup”セクションで“Wake on PCI Card”をオンにセットしなければなりません。



速度 LED (左)
緑色 100Mbps
オレンジ色 ギガビットモード



ACT LED (右)
黄色

USB2.0に接続する

当マザーボードはマウス、キーボード、モデム、プリンターなどのUSB装置に接続できるよう8つのUSB 2.0ポートを備えています。後部パネルにはポートが4つあります。前面USBコネクタをUSBモジュールやケースの前面パネルに接続するために適切なケーブルを使えます。

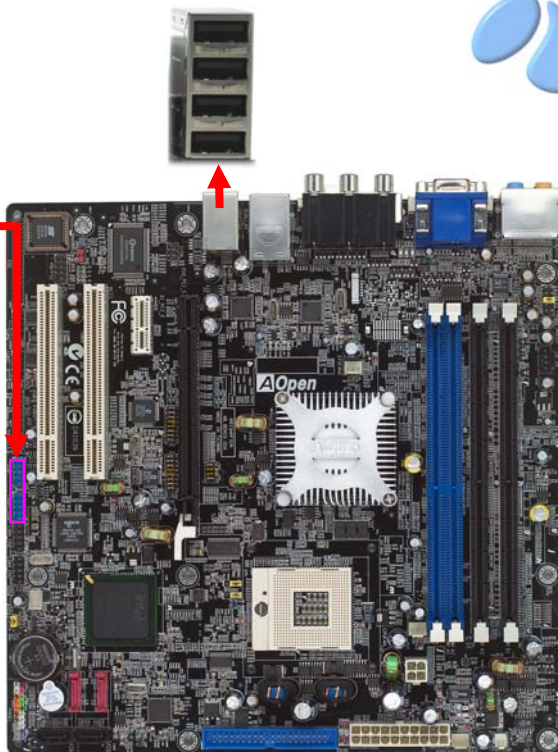


1番ピン

1番ピン

1			
+5V	●	●	+5V
SBD6-	●	●	SBD7-
SBD6+	●	●	SBD7+
GND	●	●	GND
KEY	○	●	NC

USB 2.0 Connector



1394に接続する

ボード(AGERE 1394)上のIEEE1394チップによって、データ転送率が400Mb/s までになり、このインターフェイスは高速のデータ転送パフォーマンスを要求するデジタルカメラ、スキャナーなどの他のIEEE 1394デバイスと接続できます。IEEE 1394デバイスと接続するには適切なケーブルを使用してください。



1番ピン

1番ピン

1	2		
TPA+	●	TPA-	●
GND	●	GND	●
TPB+	●	TPB-	●
+12V (Fused)	●	+12V (Fused)	●
	○	SHIELD GND	●
9	10		

IEEE 1394コネクタ

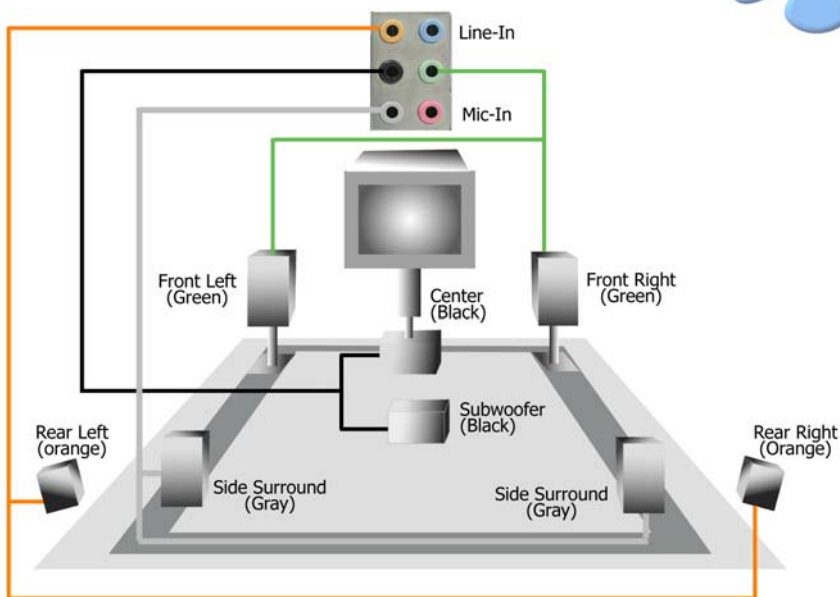


警告： IEEE 1394ヘッダーではホットプラグができないことに注意してください。そうしてしまうと制御 IC を焼き付けてしまったり、マザーボードに損傷を与



スーパー7.1チャンネルオーディオ効果

当マザーボードにはALC880 CODECが付いており、音響効果において高品質で最新の7.1チャンネルをサポートしています。これによって全く新しいオーディオ体験ができるでしょう。本マザーボードは以下に示される7.1チャンネルを提供しています。図は7.1チャンネルサウンドトラックの全てのスピーカーの位置を示しています。前面スピーカーのプラグを緑の“Speaker out（スピーカー出力）”ポートに、後部のサラウンドスピーカーをオレンジのポートに、側面のサラウンドスピーカーを灰色のポートに、中央とサブウーハースピーカーの両方を後部パネルの黒色のポートに接続してください。



前面オーディオを接続する

もしケースの前面パネルにオーディオポートが付いている場合は、このコネクターを通してオンボードオーディオを前面パネルに接続できます。ケーブルに接続する前に、前面オーディオコネクターからジャンパーキャップを外してください。もしケースの前面パネルにオーディオポートがない場合は、黄色のジャンパーキャップを外さないで下さい。



1番ピン

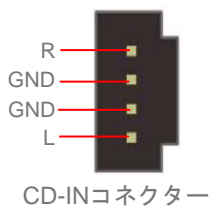


	1		
AUD_MIC	●	AUD_GND	●
AUD_MIC_BIAS	●	AUD_VCC	●
AUD_FPOUT_R	●	AUD_RET_R	●
NC	○	KEY	○
AUD_FPOUT_L	●	AUD_RET_L	●

前面オーディオコネクター

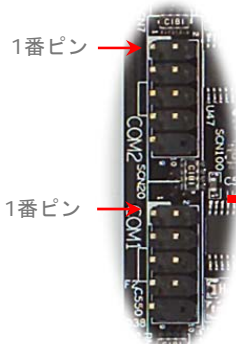
CD_INに接続する

このコネクタはオンボードサウンドのために、CDROMやDVDドライブからCDオーディオケーブルに接続するよう設計されています。



COM1/COM2に接続する

当マザーボードはシリアルポートを2つ提供しています。すべてのポートがPCI32スロットの左側にあります。適切なケーブルを使ってケースの後部パネルと接続できます。



1		
DCD#		SIN
SOUT		DTR#
GND		DSR
RTS#		CTS#
R1#		



Case Openに接続する

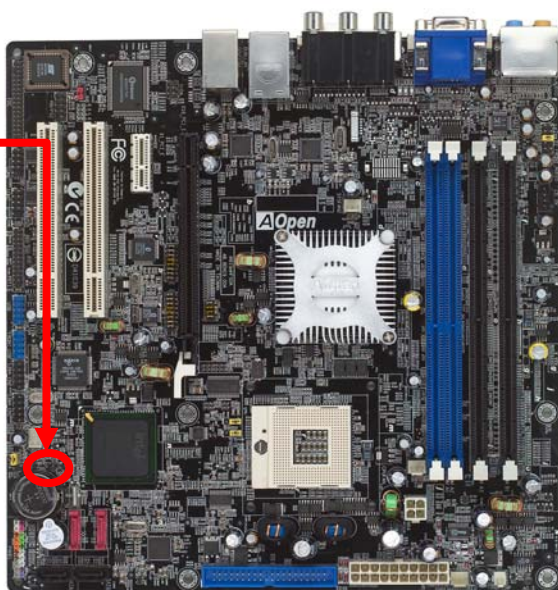
“CASE OPEN”ヘッダーはケースへの侵入監視機能を提供しています。この機能を実行させるには、システムBIOSの中でそれを有効にし、このヘッダーをケースの中のセンサーに接続しなければなりません。センサーが光や、ケースが開けられて誘発させられると、システムはビープ音で知らせます。この便利な機能は先進のケースのみに適用できることをお知らせします。余分なセンサーを購入し、ケースに接続し、この機能を十分にお使いください。



1番ピン

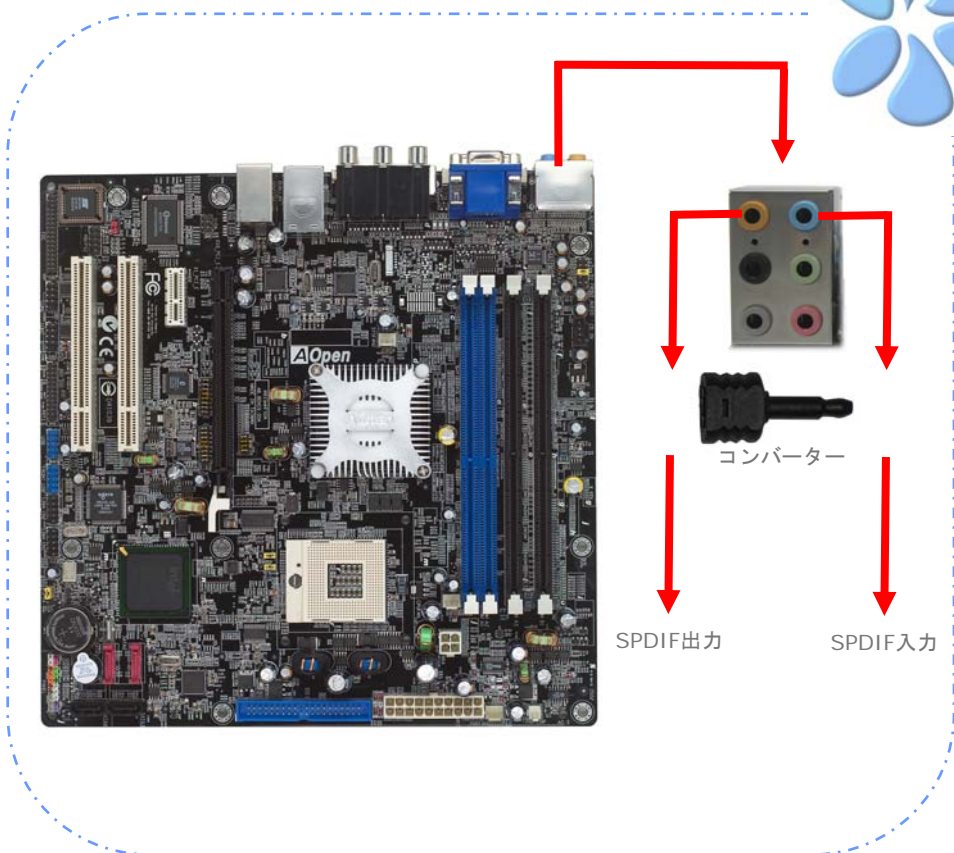
センサー 1 ● ● GND

ケース侵入コネクター



S/PDIF (Sony/Philipsデジタルインターフェイス)を接続する

S/PDIF (Sony/Philipsデジタルインターフェイス)は最新のオーディオ転送ファイルフォーマットです。これは光ケーブルを通して優れたオーディオ品質を提供し、アナログオーディオの代わりにデジタルオーディオを楽しんで頂くことを可能にしています。特定のオーディオケーブルを通して、S/PDIFコネクタをS/PDIFオーディオモジュールの他方の端に接続できます。これがS/PDIFデジタル入力/出力を担います。しかし、この機能を最大限に活用するために、S/PDIFデジタル入力/出力に接続できるように、S/PDIFデジタル入力/出力を備えた、S/PDIFをサポートするスピーカー/アンプ/デコーダーが必要です。

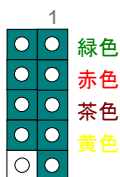
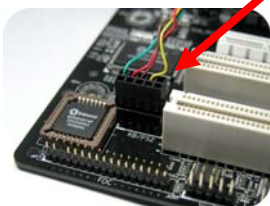


PS2キーボードに接続する

このコネクタは従来のデバイスをサポートするPS2キーボードに接続できるように設計されました。

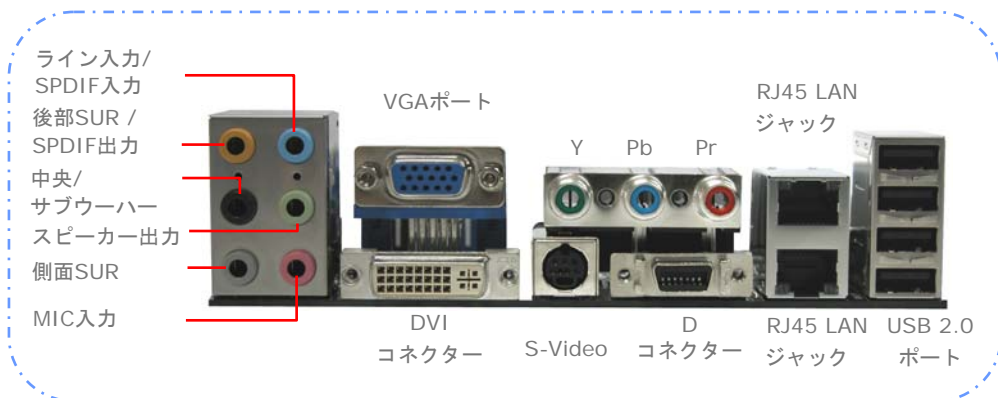


色分けに従ってコネクタを差し込んでください。



色分けされた後部パネル

オンボードのI/OデバイスにはVGAポート、YPbPr、**DVI** コネクタ、S-Video、D コネクタ、RJ-45 LANジャック、USB2.0、そしてAC'97サウンドがあります。以下の写真はケースの後部パネルから撮ったものです。

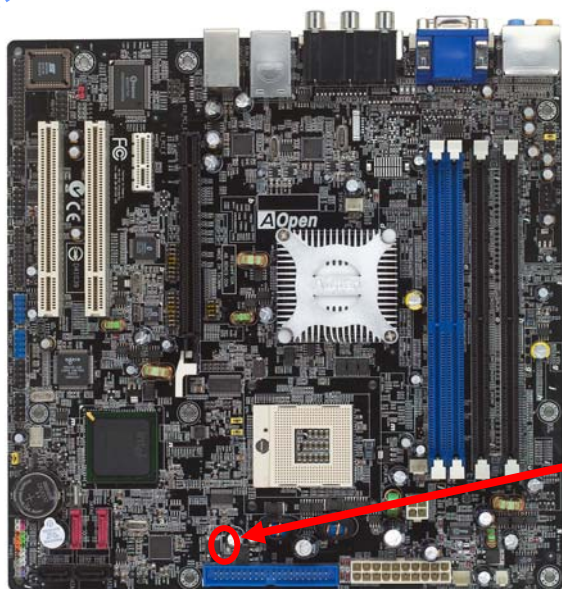


<u>ライン入力/SPDIF入力:</u>	CDやテープなどのシグナルソースから
<u>後部SUR/ SPDIF出力:</u>	後部サラウンドスピーカー用
<u>中央/サブウーハー:</u>	中央、サブウーハースピーカー用
<u>スピーカー出力/:</u>	外部スピーカー、イヤフォン、アンプ用
<u>側面SUR:</u>	側面サラウンドスピーカー用
<u>マイク入力:</u>	マイク用
<u>VGAコネクタ:</u>	PCモニターに接続
<u>DVIコネクタ:</u>	DVI入力サポートのモニターに接続
<u>YPbPrコネクタ:</u>	YPbPr入力サポートのTVに接続
<u>標準ビデオ :</u>	SVideo入力サポートのTVに接続
<u>Dコネクタ:</u>	D入力サポートのTVに接続
<u>RJ-45 LANポート:</u>	家庭用、事務所用Ethernetと接続
<u>USBポート:</u>	USBデバイスとの接続用

LED表示

LED表示にはスタンバイLEDとブートLEDが含まれており、AOpenはフレンドリーなシステム情報を提供することを目標に設計しました。

STBYLED (スタンバイLED)は電源がマザーボードに提供されているときに点灯します。システム電源の状態を確認するために便利な表示です。確認できる状態としては、電源のオン・オフ、スタンバイモードやサスペンドからRAMモードの間のRAM電源状態などがあります。



STBY LED

3.4 ジャンパー設定

JP28 キーボード/ マウス ウェイクアップジャンパ

当マザーボードはPS2キーボード / マウス・ウェイクアップ・ジャンパー機能を提供しています。

JP28 PS2 KB/マウス ウェイクアップジャンパー

オフ
(設定値)



1

オン



1

JP14 データクリアージ ジャンパー

1

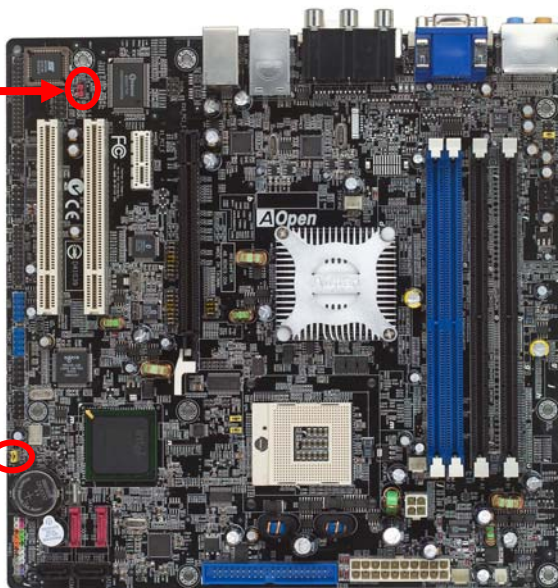


正常値
(設定値)

1



CMOSクリア時



CMOSをクリアすると、システムを設定値に戻せます。以下の方法でCMOSをクリアします。

1. システムをオフにし、ACコードを抜きます。
2. コネクタPWR2からATX電源ケーブルを外します。
3. JP14の位置を確認し、2-3番ピンを数秒間ショートさせます。
4. JP14を通常動作時の1-2ピン接続に戻します。
5. ATX電源ケーブルをコネクタPWR2に挿します。

JP14 データクリアー ジャンパー

4章 特別な機能とユーティリティー

4.1 RAID (Redundant Array of Independent Disks)

最新のSilicon Image 3132が実装されたi915ME-HFSは、Serial ATA ハードディスク用としてRAID 0とRAID 1 機能を提供しています。ディスクアレイをセットアップするためにSilicon Imageが提供するRaid構成ユーティリティーを使用できます。RAIDの紹介についての情報は、ウェブサイトで確認してください:

<http://english.aopen.com.tw/tech/techinside/RAID.htm>

RAID BIOS設定ユーティリティー

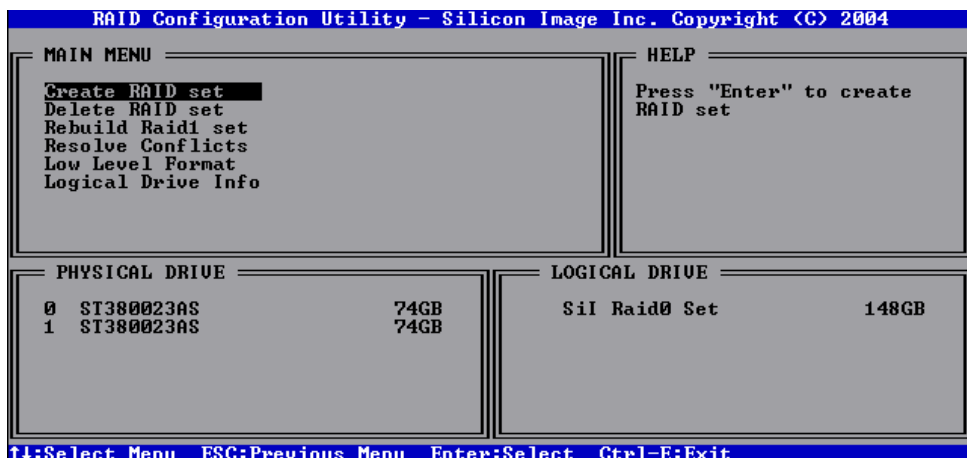
システムがシリアルATA RAIDデバイスをスムーズに認識し動作することを確認するためには、ある程度の構成を行うためにRaid構成ユーティリティーに入る必要があります。

Raid構成ユーティリティーに入る: BIOS設定と再起動をすると、起動中に[Press <CTRL - S> or F4 to enter Raid utility] というメッセージが現れます。

```
SiI 3132 SATAraid BIOS Version 7.0.06  
Copyright (C) 1997-2004 Silicon Image, Inc.  
Press <Ctrl+S> or F4 to enter RAID utility
```

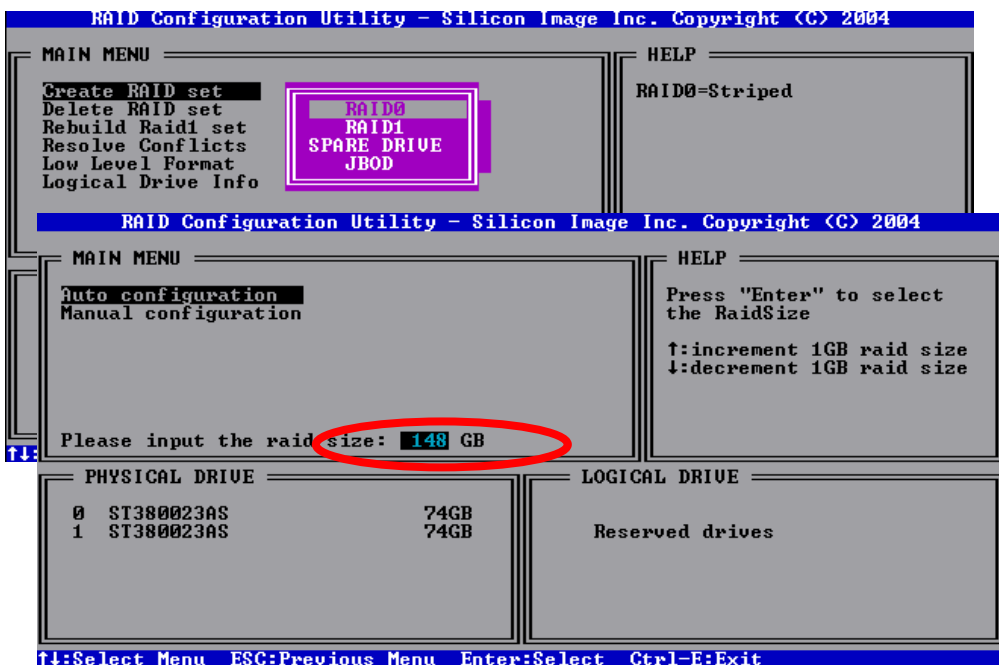


Raid構成ユーティリティーのメインメニュー: <CTRL-S>を押すと、以下の画面が現れます。これがRaid構成ユーティリティーのメインメニューです。ディスクアレイの作成や削除にこのユーティリティーを使用します。



Create RAID set (RAIDセットを作成する): raid設定に入るために<Enter>を押して下さい。<Enter>を押して、“RAID 0”, “RAID 1”, “SPARE DRIVE”, “JBOD”モードの選択ができます。

RAID 0: 2つのドライブを一つの単一ドライブに統合します。



RAID 1: ドライブ0としてミラードライブを構築します。

RAID Configuration Utility - Silicon Image Inc. Copyright (C) 2004

MAIN MENU Create RAID set Delete RAID set Rebuild Raid1 set Resolve Conflicts Low Level Format Logical Drive Info	RAID0 RAID1 SPARE DRIVE JBOD	HELP RAID1=Mirrored
--	---	-------------------------------

RAID Configuration Utility - Silicon Image Inc. Copyright (C) 2004

MAIN MENU Auto configuration Manual configuration	HELP Press "Enter" to select the RaidSize ↑:increment 1GB raid size ↓:decrement 1GB raid size
--	---

PHYSICAL DRIVE

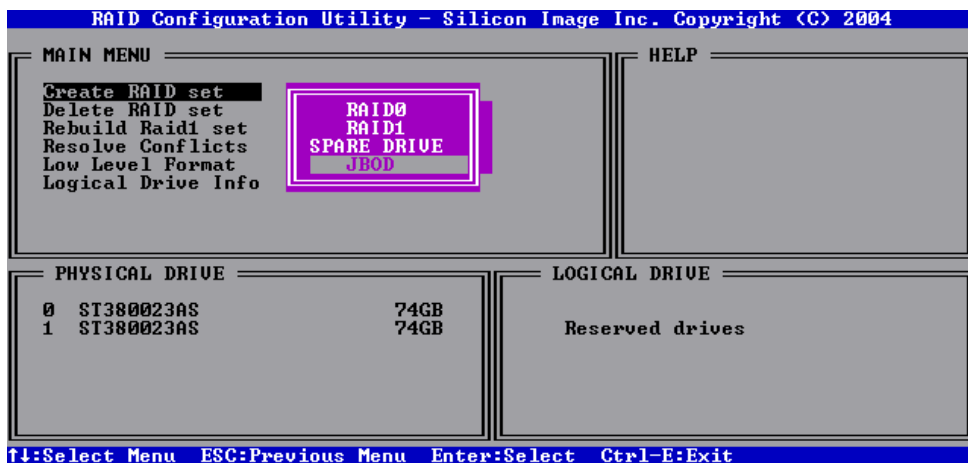
0	S	
1	S	

Please input the raid size: **74** GB

PHYSICAL DRIVE	LOGICAL DRIVE
0 ST380023AS 74GB	Reserved drives
1 ST380023AS 74GB	

↑↓:Select Menu ESC:Previous Menu Enter:Select Ctrl-E:Exit

JBOD: 汎用ドライブになります。



Delete RAID set: アレイの削除に入るために<Enter>を押すと既存のRAIDアレイの削除ができます。

Rebuild Raid1 set: <Enter>を押すと壊れたRAIDアレイを再構築ができます。

Resolve Conflicts: <Enter>を押すとRAIDの問題解決ができます。

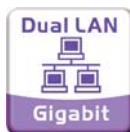
Low Level Format: <Enter>を押すと低レベルのアルゴリズムを使ってドライブのフォーマットができます。

Logical Drive Info: <Enter>を押すと論理ドライブの情報を参照できます。

4.2 他の便利な機能

研究開発チームの優れた設計能力により、AOpenは下記のような弊社製品に付属する多様で強力、そして手ごろな機能に自信をしております。そうした機能についてさらに学ぶため、私達のテクニカルウェブサイトを訪問なさってください。

<http://english.aopen.com.tw/tech/techinside>



5章 BIOSを設定する

5.1 紹介

システムのパラメーターはBIOS設定メニューに入って調整できます。このメニューではシステムパラメーターを設定したり、128バイトのCMOSエリア（通常はRTCチップかメインチップセットの中）に構成を保存できます。

マザーボードのFlash ROMがインストールされているPhoenix-Award BIOS™は業界標準BIOSのカスタムバージョンです。BIOSはハードディスクドライブ、シリアル、パラレルポートなどの標準的なデバイスのために重要な低層レベルでのサポートを提供しています。

AOpenの研究開発エンジニアリングチームは当マザーボードのほとんどのBIOS設定を最適化しました。しかし、BIOSのデフォルト設定のあるものはチップセットで制御されている部分を微調整できませんでした。そのため、この章では幾つかの設定を調整する手助けをすることを意図しています。

BIOS設定メニューに入るため、画面にPOST（パワーオン・セルフテスト）が表示されるとキーを押してください。



メモ： BIOSコードはマザーボード上で最も頻繁に変更される部分なので、このマニュアルに含まれるBIOS情報はお手元のマザーボードに付属するBIOSバージョンとは異なる場合があります。

5.2 Phoenix-Award™ BIOS設定プログラムの使い方

一般的に、選択したい項目は矢印キーを使って強調し、選択のためには<Enter>キーを押します。値を変更するには<Page Up>と<Page Down>キーを使います。Phoenix-Award™ BIOS設定プログラムを終了するには<Esc>キーを押します。以下の表はPhoenix-Award™ BIOS設定プログラムの中でキーボードの使い方の詳細を示しています。

キー	説明
Page Up か +	設定を次の値に変更するか、値を増やす。
Page Down か -	設定を前の値に変更するか、値を減らす。
Enter	項目を選択する。
Esc	メインメニュー： 変更を保存せずに終了。 サブメニュー： 現在のメニューからメインメニューへ戻る。
↑	前の項目を強調する。
↓	次の項目を強調する。
←	バーをメニューの左端に移動させる。
→	バーをメニューの右端に移動させる。
F6	CMOSからセットアップデフォルト設定値をロードする。
F7	CMOSからターボ設定値をロードする。
F10	変更された設定を保存し、セットアッププログラムを終了する。

5.3 BIOS設定への入り方

ジャンパー設定を終え、ケーブルを接続してから、電源を投入しBIOS設定に入ることができます。POST（パワーオン・セルフテスト）の間にキーを押し、推奨最適パフォーマンスのために"Load Setup Defaults"を選択してください。

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility

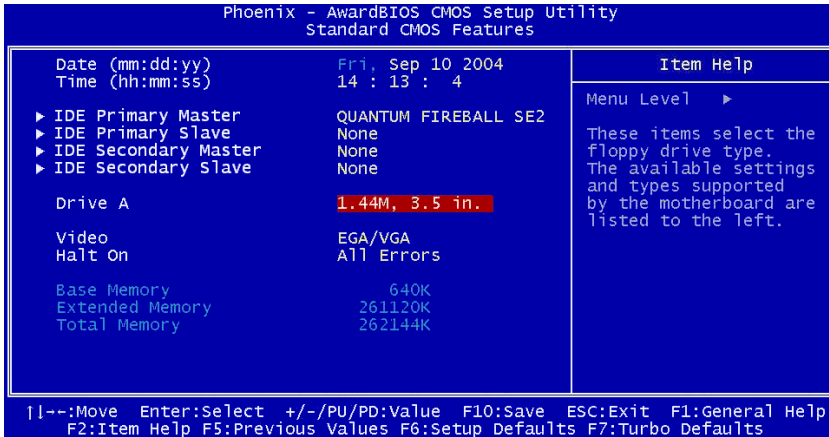
- ▶ Standard CMOS Features
- ▶ Advanced BIOS Features
- ▶ Advanced Chipset Features
- ▶ Integrated Peripherals
- ▶ Power Management Setup
- ▶ PnP/PCI Configurations
- ▶ Silent BIOS/HW Monitor
- ▶ Frequency/Voltage Control
- Load Setup Defaults
- Load Turbo Defaults
- Set Password
- Save & Exit Setup
- Exit Without Saving
- Load EEPROM Defaults
- Save EEPROM Defaults
- ▶ Credits

Esc : Quit
F10 : Save & Exit Setup
| | - - : Select Item

警告： ご自分のシステムコンポーネント (CPU, SDRAM, HDDなど) がターボ設定に十分であることが確かでない限り、"Load Turbo Defaults"を使用しないでください。

標準的なCMOS機能

"Standard CMOS Setup"は日付、時刻、ハードディスクタイプなどの基本的なシステムパラメーターを設定します。矢印キーを使い項目をハイライトし、各項目の値の選択は<PgUp>や<PgDn>を使ってください。



Standard CMOS Features > Date

日付を設定するには、日付のパラメーターをハイライトして下さい。現在の日付を設定するには<PgUp>や<PgDn>を押して下さい。日付のフォーマットは月、日、都市の順です。

Standard CMOS Features > Time

時刻を設定するには、時刻のパラメーターをハイライトして下さい。<PgUp>や<PgDn>を押して、現在の時刻を時間、分、秒の順に設定して下さい。時刻は24時間のmilitary clockに基付いています。

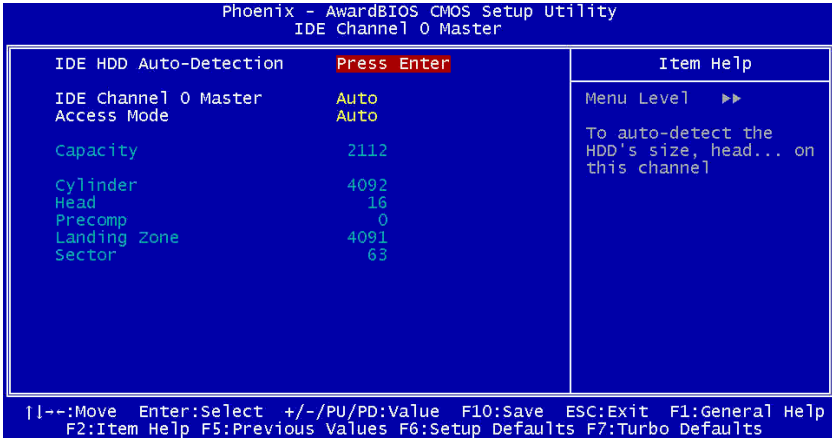
Standard CMOS Features > Primary Master

Standard CMOS Features > Primary Slave

Standard CMOS Features > Secondary Master

Standard CMOS Features > Secondary Slave

この項目ではシステムをサポートするIDEハードディスクの選択ができます。これらのパラメーターはSize, Number of Cylinder, Number of Head, Start Cylinder for Pre-compensation, Cylinder number of Head Landing ZoneそしてNumber of Sector per Trackです。デフォルト設定は**Auto**で、POST (パワーオン・セルフテスト)の時に、BIOSが自動的にインストールされているHDD (ハードディスクドライブ)を検出できるようにします。手動でHDDパラメーターに入ることを望まれる場合は、Manualを選択してください。



IDE HDD Auto-Detection: HDDパラメーターを自動検出できるよう“Enter”を押して下さい。

IDE Channel 0 Master (Slave): Channel 0 (マスターあるいはスレーブ)で、IDEデバイスのパラメーターを定義します。利用可能なオプション：

- **None:** デバイスがなければ、ブートを早くするために“None”を選択する。
- **Auto:** IDEデバイスのパラメーターを自動検出するためにBIOSをオンにする。(デフォルト)
- **Manual:** IDEデバイスのパラメーターをユーザーが定義できるようにする。

Access Mode: 使用するHDDモードを設定する。利用可能なオプション：**CHS / LBA / Large / Auto** (デフォルト)。ユーザーはHDDのラベルに従ってモードの選択ができます。

Cylinder: シリンダー数を入力する

Head: ヘッド数を入力する

Precomp: 事前補正を書き込む

Landing Zone: ヘッドの位置

Sector: セクター数

Standard CMOS Features > Drive A

この項目ではユーザーがフロッピードライブ形式を選択できます。利用可能なオプション:**None / 360KB 5.25" / 1.2MB 5.25" / 720KB 3.5" / 1.44MB 3.5" / 2.88MB 3.5"**

Standard CMOS Features > Vedio

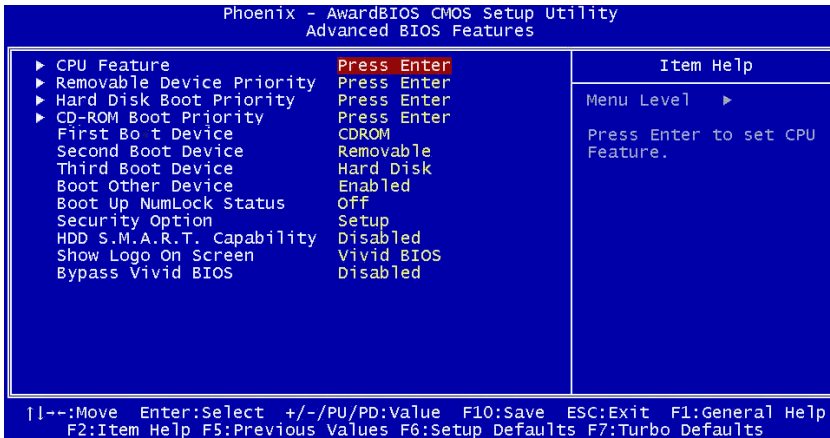
この項目では使用中のビデオ形式を特定します。デフォルトは**VGA/EGA**です。現在のPCがVGAのみを使用しているため、この機能はそれほど役に立たず将来的には廃止されます。

Standard CMOS Features > HaltOn

このパラメーターは、パワーオン・セルフテスト(POST)エラーの場合のシステム停止を制御できるようにします。利用可能なオプション：**No errors / All errors / All, But Keyboard / All, But Diskette / All, But Disk/Key**

高度なBIOS機能

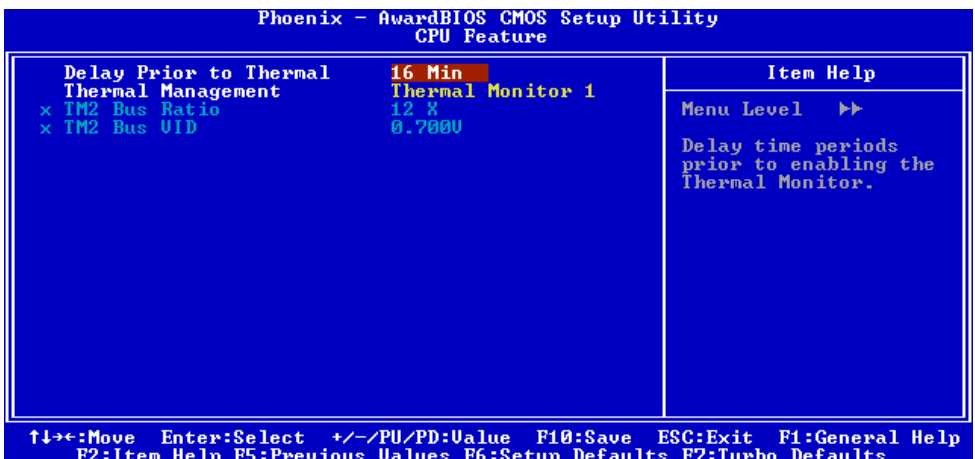
この画面はメインメニューから"Advanced BIOS Features"を選択した時に現れます。



Advanced BIOS Features > CPU Feature

Delay Prior to Thermal: サーマルモニターをオンにする前にディレイ時間を選択してください。利用可能なオプション： **4 Min / 8 Min / 16 Min / 32 Min**

Thermal Management: CPU内部のサーマル管理機能を設定してください。CPUがThermal Monitor 1 (TM1)とThermal Monitor 2 (TM2)をサポートしている時は、ユーザーはTM1かTM2を選択できます。しかしCPUがTM2をサポートしていない場合は、TM1に固定されます。TM2がオンであり、高温度状況が検知されると、バスレシオのコア経由でCPUに動作クロックを調整させたり、VIDシグナル経由で電圧を入力させます。**TM2 Bus Ratio**と**TM2 Bus VID**はTM2用のCPUデフォルトを示します。



Advanced BIOS Features > Removable Device Priority

Advanced BIOS Features > Hard Disk Boot Priority

Advanced BIOS Features > CD-ROM Boot Priority

このパラメーターはシステムの起動検索順を特定できるようにしてくれます。

Advanced BIOS Features > First Boot Device

Advanced BIOS Features > Second Boot Device

Advanced BIOS Features > Third Boot Device

このパラメーターはシステムの起動検索順を特定できるようにしてくれます。利用可能なオプション：

- **Removable:** フロッピー, USB, ZIPなど
- **Hard Disk:** ハードディスクドライブ
- **CD-ROM:** CD-ROM, DVD-ROMなど
- **LAN:** ブートROM付属のLANカード
- **Disabled:**

Advanced BIOS Features > Boot Other Device

このパラメーターは上述されていない他のシステムの起動デバイスをオンにできるようにしてくれます。

Advanced BIOS Features > Boot Up NumLock Status

数式キーパッドの機能を有効にするために、このパラメーターを“On”に設定して下さい。数式機能をオフにするために、このパラメーターを“Off”に設定すると数式キーをカーソルコントロールとして使用できます。

Advanced BIOS Features > Security Option

“System”オプションはシステムブートとBIOS設定へのアクセスを制限します。パスワードを入力するようになるとのプロンプトがシステムを起動するたびに画面に表示されます。

“Setup”オプションはBIOS設定へのアクセスのみを制限します。

セキュリティーオプションをオフにするためには、メインメニューからPassword Settingを選択します。何も入力せずに、<Enter>を押して下さい。

Advanced BIOS Features > HDD S.M.A.R.T Capability

この項目はユーザーがHDD用のS.M.A.R.T. (Self-Monitoring Analysis & Reporting Technology : 障害事前検知機能)をオンにできるようにしてくれます。この機能はHDD障害の可能性を予知できます。デフォルトは“Disabled”です。

Advanced BIOS Features > Show Logo On Screen

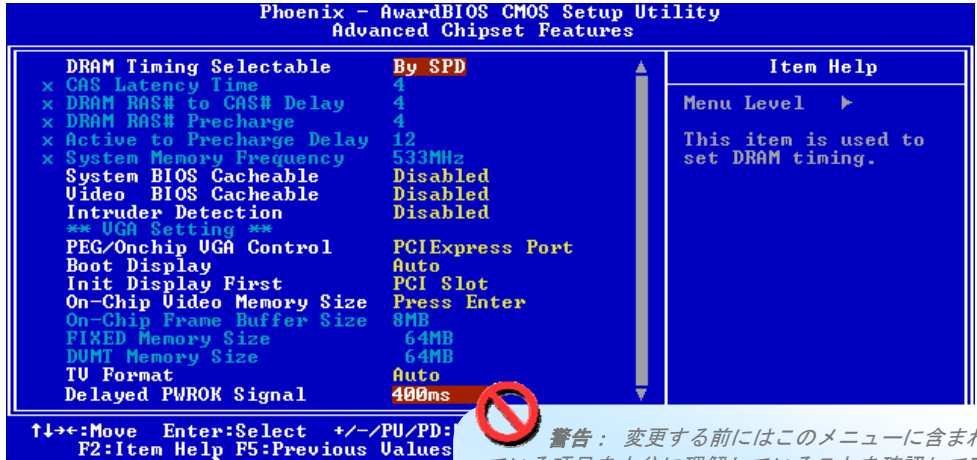
この項目では“Full Screen logos”や“Vivid BIOS logos”を表示したり隠したりという選択ができるようになります。

Advanced BIOS Features > Bypass Vivid BIOS

この項目では起動時にVivid BIOSをバイパスしたりしなかったりできるようになります。

高度なチップセット機能

"Advanced Chipset Features"はチップセット依存機能のための設定を含みます。これらの機能はシステムパフォーマンスに関係します。



Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility
Advanced Chipset Features

	By SPD	Item Help
DRAM Timing Selectable	By SPD	
x CAS Latency Time	4	Menu Level ▶
x DRAM RAS# to CAS# Delay	4	This item is used to set DRAM timing.
x DRAM RAS# Precharge	4	
x Active to Precharge Delay	12	
x System Memory Frequency	533MHz	
System BIOS Cacheable	Disabled	
Video BIOS Cacheable	Disabled	
Intruder Detection	Disabled	
** UGA Setting **		
PEG/Onchip UGA Control	PCIExpress Port	
Boot Display	Auto	
Init Display First	PCI Slot	
On-Chip Video Memory Size	Press Enter	
On-Chip Frame Buffer Size	8MB	
FIXED Memory Size	64MB	
DUMI Memory Size	64MB	
TU Format	Auto	
Delayed PWROK Signal	400ms	

↑↓←→:Move Enter:Select +/-/PU/PD: F2:Item Help F5:Previous Values

警告: 変更する前にはこのメニューに含まれている項目を十分に理解していることを確認して下さい。システムパフォーマンスを改善するためにパラメーター設定を変更できます。しかし、設定がお手元のシステム構成に対して正しくなければシステムが不安定なるかもしれません。

Advanced Chipset Features > DRAM Timing Selectable

利用可能なオプション:

- **By SPD:** システムがDramの初期値に従ってタイミングを定義します。(初期値)
- **Manual:** ユーザーが自分でタイミングの定義をします。

Advanced Chipset Features > CAS Latency Time

Synchronous DRAMがインストールされているとき、CAS待ち時間のクロックサイクル数はDRAMのタイミングに依存しています。利用可能オプション: 2, 2.5, 3

Advanced Chipset Features > DRAM RAS# to CAS# Delay

このフィールドは、RAMが書き込まれたり、読まれたり、リフレッシュされるときにユーザーがCASとRASストロブ信号の間でTiming Delayを挿入できます。Fastはパフォーマンスを早くし、Slowはより安定したパフォーマンスを提供します。このフィールドはSynchronous DRAMがシステムにインストールされている時だけ適用されます。利用可能オプション: 2, 3, 4, 5

Advanced Chipset Features > DRAM RAS# Precharge

DRAMがリフレッシュする前に不十分なサイクル数がRAS用に変更を累積する場合は、リフレッシュは不完全になり、DRAMがデータ保持に失敗する可能性があります。Fastはパフォーマンスを早くし、Slowはより安定したパフォーマンスを提供します。このフィールドはSynchronous DRAMがシステムにインストールされている時だけ適用されます。利用可能なオプション： **2, 3, 4, 5**

Advanced Chipset Features > Active to Precharge Delay

Precharge DelayにアクティブなOSを選択して下さい。利用可能なオプション： **4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15**

Advanced Chipset Features > System Memory Frequency

この項目はDRAMのタイミングを設定するために使用されます。

利用可能なオプション： **DDR: 333 MHz, DDR2: 400 MHz, 533 MHz**

Advanced Chipset Features > System BIOS cacheable

システムBIOSが高速なシステムパフォーマンスをできるようにキャッシュされます。

利用可能なオプション： **Disabled, Enabled**

Advanced Chipset Features > Video BIOS cacheable

ビデオBIOSが高速なビデオパフォーマンスをできるようにキャッシュされます。

利用可能なオプション： **Disabled, Enabled**

Advanced Chipset Features > Intruder Detection

この項目はユーザーがケースの開閉を検知できるようにします。ケースにCASE OPENケーブルが設計されていて、マザーボードに接続されている時にだけ機能します。

利用可能なオプション： **Disabled, Enabled**

Advanced Chipset Features > PEG/On Chip VGA Control

この項目はオンボードのVGAやPCI Express Graphicカードからの最初のディスプレイを選択するために使用されます。

Advanced Chipset Features > Boot Display

この項目は起動ディスプレイを設定するために使用されます。利用可能なオプション：

Auto, CRT, TV, EFP

Advanced Chipset Features > Init Display First

PCI VGAカードをインストールした場合、この項目はどちらが最初のディスプレイカードかを決めさせてくれます。

Advanced Chipset Features > On-Chip Video Memory Size

この項目ではユーザーが、チップ上のフレームバッファサイズ、固定メモリーサイズ、DVMTを制御できます。

Advanced Chipset Features > TV Format

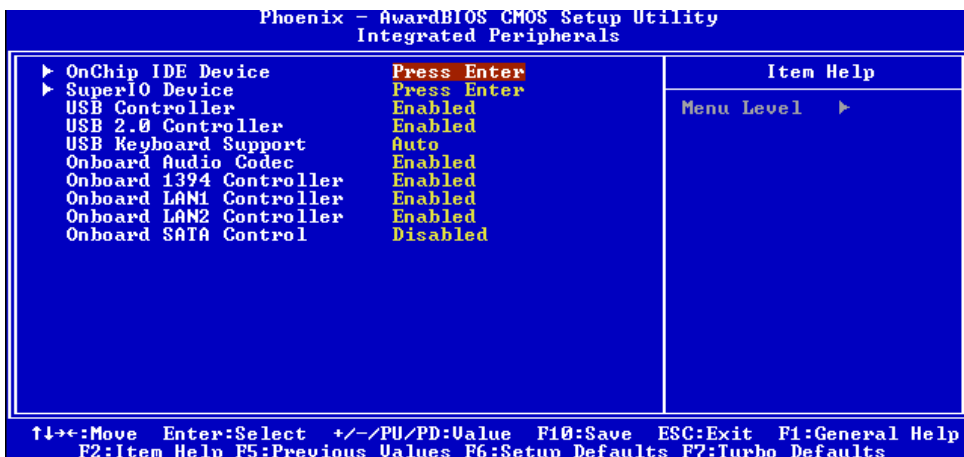
利用可能なオプション：Auto, NTSC_M, NTSC_M_J, NTSC_433, NTSC_N, PAL_B, PAL_G, PAL_D, PAL_H, PAL_I, PAL_M, PAL_N, PAL_60, SECAM_L, SECAM_L1, SECAM_B, SECAM_D, SECAM_G, SECAM_H, SECAM_K, SECAM_K1.

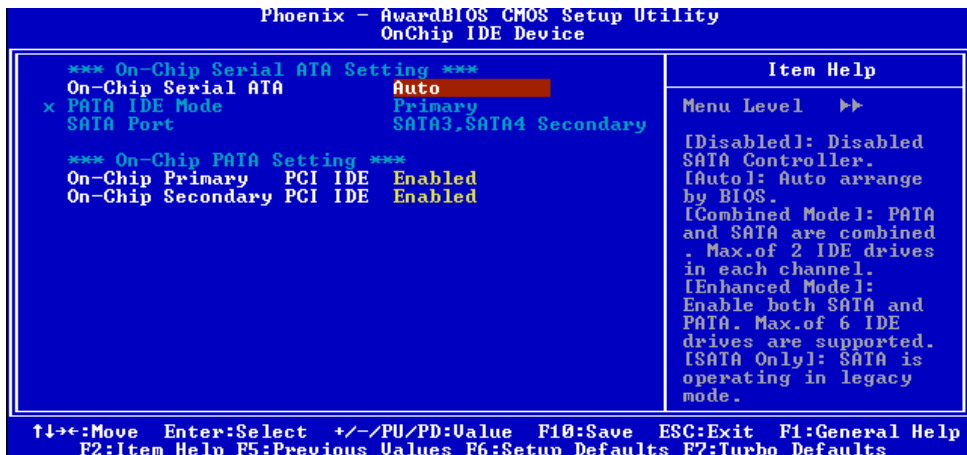
Advanced Chipset Features > Delayed PWROK Signal

この項目では起動時の失敗を防ぐため、マザーボードと電源機構の互換性を追加するために使用されます。利用可能なオプション：400ms (デフォルト) / 300ms / 200ms / 100ms / Disabled

統合された周辺機器

メインメニューから"Integrated Peripherals"のオプションを選択する場合、このサブメニューが表示されます。このオプションではユーザーがI/O機能を構成できます。





Integrated Peripherals > OnChip IDE Device

Integrated Peripherals > OnChip IDE Device > On-Chip Serial ATA

この項目ではSATAとPATAの間でワークモードを選択できます。

利用可能なオプション：**Disabled:** SATAコントローラーをオフにする

Auto: BIOSで自動アレンジする

Combined Mode: PATAとSATAは互換性があります。各チャンネル

2つのIDEドライブが最大です。

Enhanced Mode: SATAとPATAの両方をオンにする。最大6つ

までのIDEドライブをサポートしています。

SATA only: SATAは従来のモードで動作します。

Integrated Peripherals > OnChip IDE Device > PATA IDE Mode

On-chip SATAが“Combined Mode”として選択されると、この項目はPATAをプライマリ、あるいはセカンダリーとして設定します。

Integrated Peripherals > OnChip IDE Device > SATA Port

Integrated Peripherals > OnChip IDE Device > On-Chip PATA Setting

このパラメーターはプライマリやセカンダリーIDEコネクタに接続されたIDEデバイスを“Enable”あるいは“Disable”にします。

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility
SuperIO Device

	BUTTON ONLY	Item Help
POWER ON Function	Enter	Menu Level ▶▶
× KB Power ON Password	Ctrl-F1	This item is used to select Wake on Keyboard/Mouse mode.
× Hot Key Power ON	Enabled	
Onboard FDC Controller	Auto	Any Key: This function allows you wake up the system by clicking any key.
Onboard Serial Port 1	Auto	
Onboard Serial Port 2	Normal	Button Only: Disable Wake on KB/MS function . You can boot up your system by power button only.
UART Mode Select	Hi,Lo	
× RxD , TxD Active	Enabled	
× IR Transmission Delay	378/IRQ7	
Onboard Parallel Port	SPP	
Parallel Port Mode	EPP1.9	
× EPP Mode Select	3	
× ECP Mode Use DMA	Off	
AC PWR Auto Recovery		

↑↓←→:Move Enter:Select +/-/PU/PD=Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help
F2:Item Help F5:Previous Values F6:Setup Defaults F7:Turbo Defaults

Integrated Peripherals > SuperIO Device

この項目はSuperIOデバイスの設定を可能にします。

Power ON Function: この項目はキーボード/マウスモードのWakeを選択するために使用されます。

- **Any Key:** この機能はキーをクリックしてシステムをウェイクアップさせます。
- **Button Only:** KB/MS機能のWakeをオフにします。電源ボタンだけでシステムのブートができます。
- **Keyboard 98:** このオプションを選択する場合は、電源ボタンとKeyboard 98の“Wake”キーでシステムをブートできます。
- **Password:** 電源ボタンの機能をオフにし、システムが、あらかじめ設定されたキー（パスワードのようなもの）を通してのみ電源を投入できるようにします。
- **Hot Key:** このオプションを選択する場合は、“Hot Key Power On”項目からホットキーを特定する必要もあります。
- **Mouse Left:** このオプションでは左マウスボタンを2度続けてクリックすることでシステムをウェイクアップさせられます。
- **Mouse Right:** この機能では右マウスボタンを2度続けてクリックすることでシステムをウェイクアップさせられます。

メモ:

- ◆ この項目を変更するときは常に、システム再起動し、Windows や DOS が正しく起動した後でのみ有効になります。
- ◆ マウス機能の Wake は PS/2 マウスにのみ適用されます。
- ◆ 設定したパスワードを忘れた場合は、CMOS をクリアして下さい。
DOSでマウス機能のWakeを使用したい場合は、マウスのDOSドライバーをインストールする必要があります。

KB Power ON Password: パスワードとして1-5キーを指定できます。

Hot Key Power On: “Power On Function” 項目の“Hot Key”オプションを選択する場合、このホットキーを指定する必要があります。

Onboard FDC Controller: このパラメーターを“Enabled”に設定すると、個々のコントローラーカードの代わりに、フロッピーディスクドライブをオンボードのフロッピーディスクコントローラーに接続できるようになります。個々のコントローラーカードを使用したい場合は、設定をDisabledに変更して下さい。

Onboard Serial Port 1: この項目はアドレスとボードのシリアルポートの割り込みを割り当てます。デフォルトは“Auto”です。

Onboard Serial Port 2: この項目はアドレスとボードのシリアルポートの割り込みを割り当てます。デフォルトは“Auto”です。

UART Mode Select: この項目は“Onboard Serial Port 2”が有効な場合にのみ設定可能です。Serial Port 2モードの指定ができます。利用可能なオプション：

- **Normal:** Serial Port 2を通常モードで動作するように設定して下さい。これがデフォルト設定です。
- **IrDA (SIR):** この設定は赤外線シリアル通信を最大115.2K baudレートにします。
- **ASKIR:** この設定は赤外線シリアル通信を最大57.6K baudレートにします。

RXD, TXD Active: この項目はUARTでIR機器やモデム等を使用する際のRxD (データ受信)およびTxD (データ送信)モードを選択する時に使用されます。通常は、デフォルト設定を維持されるようお勧めします。お手持ちの機器に付属の取り扱い説明書を参照して下さい。利用可能なオプション：**Hi, Hi / Hi, Lo**

IR Transmission Delay: “Enabled”が選択されている場合は、SIRがTXモードからRXモードへ移行する際に4文字分のディレイがあります。

Onboard Parallel Port: この項目はオンボードの平行ポートアドレスおよび割り込みを制御します。利用可能なオプション：**3BC/IRQ7, 3BC/IRQ7, 3BC/IRQ7, Disabled**

Parallel Port Mode: この項目は平行ポートのモードの設定を可能にします。モードのオプションはSPP (標準双方向平行ポート)、EPP (エンハンスド平行ポート)とECP (エクステンデッド平行ポート)。利用可能なオプション：

- **SPP (標準双方向平行ポート):** SPPはIBM ATやPS/2との互換モードです。
- **EPP (エンハンスド平行ポート):** EPPはラッチなしで双方向に直接読み書きを可能にしてスループットを上げた平行ポートです。
- **ECP (エクステンデッド平行ポート):** ECPはDMAと、さらにRLE (ランレングスエンコード)方式による圧縮と伸張をサポートした平行ポートです。
- **ECP + EPP**

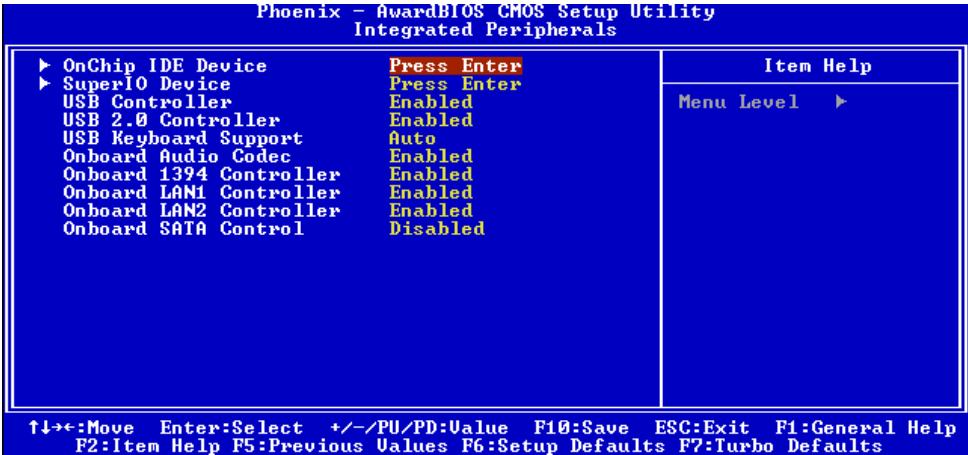
EPP Mode Select: この項目でEPPモードプロトコルを選択します。

利用可能なオプション：**EPP 1.7, EPP 1.9**

ECP Mode Use DMA: この項目でECPモードでのDMAチャンネルを設定します。利用可能なオプション：**3, 1**

AC Power Auto Recovery: 従来のATXシステムは停電でAC電源が切断された場合、電源オフの状態のままです。この設計は、常時電源の入ったUPSなしでは、ネッ

トワークサーバーやワークステーションにとっては不便です。この項目はこの問題を解決するために使用します。Onを選択すると、AC電源が復旧した時点で自動的にシステムを起動させられます。Offを選択する場合、システムはオフのままです。Former-Sts (former status) オプションを選択すると、システムのオン・オフは直前の状態によって制御されます。利用可能なオプション： **Former-Sts, On, Off**



Integrated Peripherals > USB Controller: この項目でUSBコントローラーのオン・オフができます。

Integrated Peripherals > USB 2.0 Controller: この項目でUSB 2.0コントローラーのオン・オフができます。

Integrated Peripherals > USB Keyboard Support: この項目で、オンボードBIOS内でUSBキーボードドライバーのオン・オフができます。キーボードドライバーは従来のキーボードコマンドをシミュレートし、OSにUSBドライバーがない場合には、POSTの間またはブートの後でUSBキーボードが使用できます。

Integrated Peripherals > On Board Audio Codec: この項目はオンボードオーディオをオン・オフにするために使用されます。

Integrated Peripherals > Onboard 1394 Control: この項目はオンボード1394をオン・オフにするために使用されます。

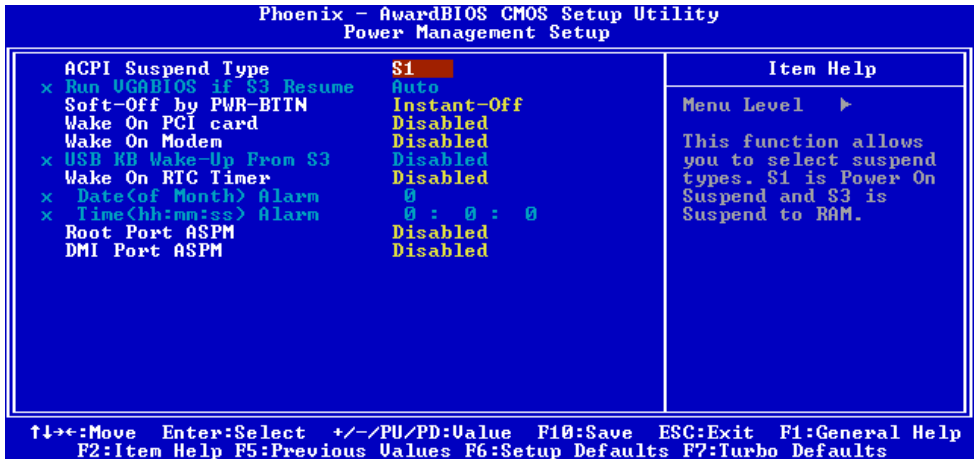
Integrated Peripherals > Onboard LAN1 Control: この項目はオンボードLANをオン・オフにするために使用されます。

Integrated Peripherals > Onboard LAN2 Control: この項目はオンボードLANをオン・オフにするために使用されます。

Integrated Peripherals > Onboard SATA Control: この項目はオンボードSATAをオン・オフにするために使用されます。

パワーマネジメント設定

パワーマネジメント設定画面でマザーボードの環境機能を制御できます。以下の画面を参照して下さい。



Power Management > ACPI Suspend Type

この項目でサスペンドのタイプを設定します。S1はPower On Suspendで、S3はSuspend to RAMです。利用可能なオプション：S1, S3, S1 & S3

Power Management > Soft-off by PWR-BTTN

これはACPI規格で、ハードウェアでサポートされています。ディレイ4秒を選択したとき、前面パネルのソフトパワースイッチは電源をオン、サスペンド、そしてオフするために使用されます。スイッチを電源オンの間に4秒弱押ししていると、システムはサスペンドモードになります。スイッチを電源オンの間に4秒以上押ししていると、システムの電源はオフになります。デフォルト設定はInstant-Offです。Instant-Offが選択されている場合は、ソフトパワースイッチはオン・オフを制御するためにのみ使用されます。そのため4秒以上押し続ける必要はありません。サスペンドはありません。

利用可能なオプション：Delay 4 sec., Instant-Off

Power Management > Wake On PCI card

これはPCI規格2.2の機能です。PCIバスはPCIカードへのスタンバイ電流を供給し、PCIカードで何らかの活動があるとシステムはウェイクアップします。

利用可能なオプション：Disabled, Enabled

Power Management > Wake On Modem

この項目ではモデムウェイクアップ機能をオン・オフします。

利用可能なオプション：Disabled, Enabled

Power Management > Wake On RTC Timer

ウェイクアップタイマーはアラームのようなもので、特定のアプリケーションを使用するためシステムを指定した時間にウェイクアップ・パワーオンさせるのに使用します。指定

は、毎日または一ヶ月以内の特定の日が設定できます。日時は秒単位まで指定可能です。このオプションでRTCウェイクアップ機能をオン・オフします。利用可能なオプション：**By Date, By Week, Disabled**

Power Management > Date (of Month) Alarm

この項目はウェイクオンRTCタイマーのオプションをオンにした場合に表示されます。ここでシステムを起動する日付を指定します。例えば、15にセットするとシステムは毎月15日に起動します。



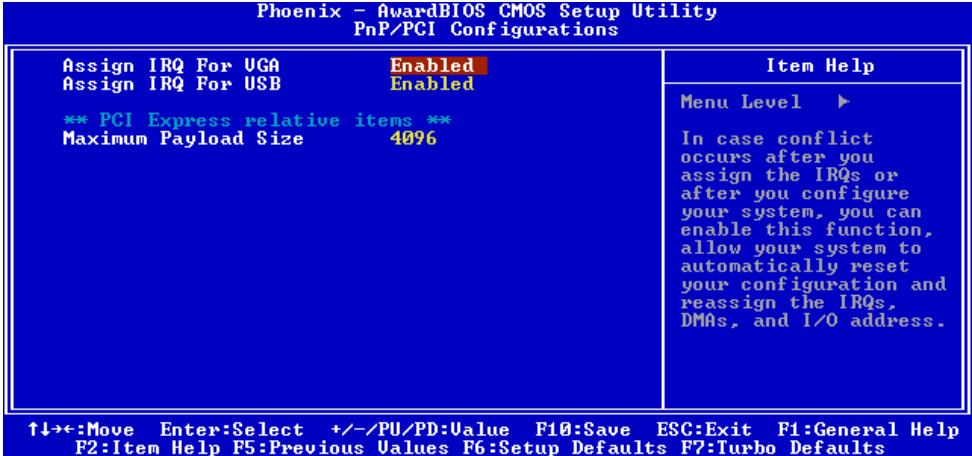
ヒント: この項目を 0 に設定すると毎日指定した時間（ウェイクオンRTCタイマーで設定した）にシステムがウェイクアップします。

Power Management > Time (hh:mm:ss) Alarm

この項目はウェイクオンRTCタイマーのオプションをオンにした場合に表示されます。ここでシステムを起動する時刻を指定します。

PNP/PCI構成

PNP / PCI構成設定ではシステムにインストールされているISAおよびPCI機器の構成ができます。メインメニューから"PNP/PCI Configuration Setup"オプションを選択すると、以下の画面が表示されます。



PNP/PCI Configurations > Assign IRQ For VGA

IRQを割り当てたりシステムを構成した後でコンフリクトが起きる場合は、この機能をオンにすると、システムが自動的に構成をリセットし、IRQ、DMAそしてI/Oアドレスを再度割り当てられるようになります。

利用可能なオプション：Disabled, Enabled

PNP/PCI Configurations > Assign IRQ For USB

IRQを割り当てたりシステムを構成した後でコンフリクトが起きる場合は、この機能をオンにすると、システムが自動的に構成をリセットし、IRQ、DMAそしてI/Oアドレスを再度割り当てられるようになります。

利用可能なオプション：Disabled, Enabled

PNP/PCI Configurations > Maximum Payload Size

この項目ではTLP (Transaction Layer Package) サイズの設定が出来ます。利用可能なオプション：128, 256, 512, 1024, 2048, 4096

Silent BIOS/HW Monitor

このサブメニューはSilent BIOS / HWモニター状況を表示しています。幾つかの基本的な制御機能を提供しています。

Phoenix - AwardBIOS CMOS Setup Utility Silent BIOS/HW Monitor		Item Help
CPU Warning Temp.	Disabled	Menu Level ▶
SYS Temp.	28° C / 82° F	This item is used to specify a CPU warning temperature. When the CPU temperature is higher than this predefined value, the CPU speed will automatically slow down and there will be a warning from BIOS.
CPU Temp.	67° C / 152° F	
PWR Temp.	0° C / 32° F	
SYSFAN2 Speed	5113 RPM	
CPUFAN Speed	5113 RPM	
PWRFAN Speed	0 RPM	
Fan Mode	Full Speed	
x SYSFAN2 Smart Temp.	Disabled	
x SYSFAN2 Fixed Speed	100 %	
x CPUFAN Smart Temp.	Disabled	
x CPUFAN Fixed Speed	100 %	
x PWRFAN Smart Temp.	Disabled	
x PWRFAN Fixed Speed	100 %	
Ucore	1.340	
+ 3.3 U	3.280	
+ 12 U	11.850	
+ 5 U	4.960	

↑↓←→:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help
F2:Item Help F5:Previous Values F6:Setup Defaults F7:Turbo Defaults

Silent BIOS/HW Monitor > CPU Warning Temperature

この項目はCPUの警告温度を指定するために使用します。CPUの温度がこの事前に定義した値を上回ると、CPU速度が自動的に遅くなり、BIOSからの警告があります。

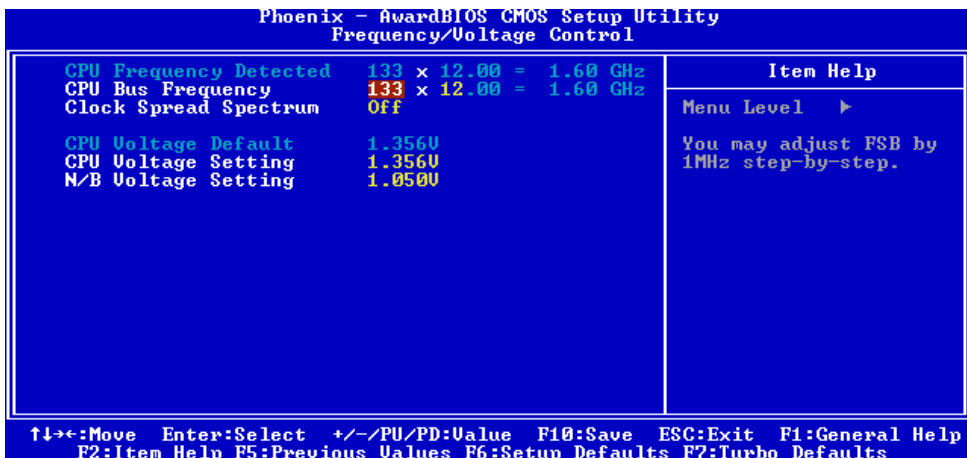
Silent BIOS/HW Monitor > Fan Mode

この項目はユーザーがファン速度のモードを選択できるようにしています。利用可能なオプション：

- **Full Speed:** 全てのファンが全速で回転します。
 1. CPUFANが接続されていないかたり、動作していない場合、警告音があります。
 2. SystemFANあるいはPowerFANがマザーボードに接続されている場合、またSystemFANあるいはPowerFAN動作していない場合、警告音があります。
- **Smart Control:** ユーザーが個々のファンにとって重要な温度の設定が可能です。温度が危機的なレベル以下であればファンは動かず、逆の場合にファンが動きます。
 1. 電源温度コネクタが接続されていない場合は、電源ファンのSmart Controlモードはオフになります。
- **Fixed Speed:** ユーザーが、一定の速度でファンが動作するように個々のファンの電圧を定義できます。
 1. CPUFANが接続されていないかたり、動作していない場合、警告音があります。
 2. SystemFANあるいはPowerFANがマザーボードに接続されている場合、またSystemFANあるいはPowerFAN動作していない場合、警告音があります。

クロック/電圧コントロール

このサブメニューはCPUとメモリークロックを構成するのに使用します。



Frequency/Voltage Control > CPU Bus Frequency

この項目はユーザーがCPUバスクロックをオーバークロックできるようにしています。帯域は100から400です。



ヒント：オーバークロックに失敗したときは、デフォルト設定を戻すためにCMOS (JP14)をクリアできます。電源を投入してから、すぐに“Home”を押し、画面が現れるまでそうしてください。

Frequency/Voltage Control > Clock Spread Spectrum

この項目はクロックスプレッドスペクトル値を設定するために使用します。BIOSがインストールされているCPUに従って調整可能な値を決めますが、全ての項目が表示されるわけではありません。この機能はCPUバスクロックが100MHzのときだけ機能します。

利用可能なオプション：0.70% Center / 1.00% Center / 1.20% Center / Spread Off

Frequency/Voltage Control > CPU Voltage Default

この項目はインストールされているCPUのデフォルト電圧を表示します。

Frequency/Voltage Control > CPU Voltage Setting

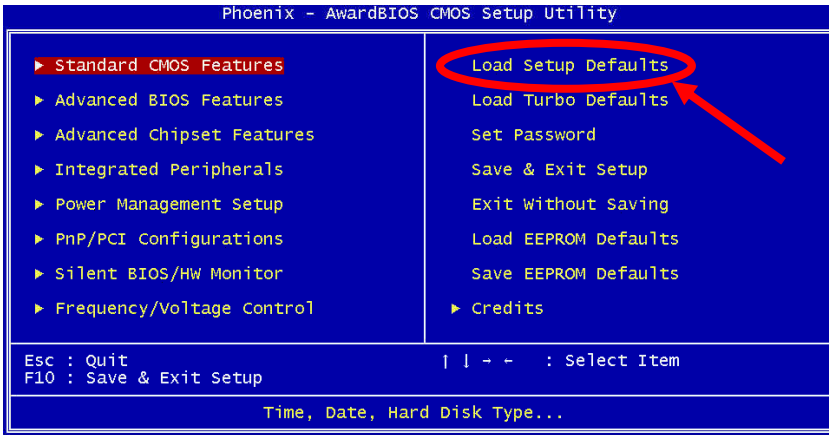
この項目はCPU Vcore電圧を調整するために使用します。BIOSがインストールされているCPUに従って調整可能な値を決めます。

Frequency/Voltage Control > N/B Voltage Setting

この項目はNorth Bridge電圧を調整するために使用します。BIOSがインストールされているNorth Bridgeデフォルトに従って、調整可能な値を決めます

設定デフォルトをロードする

"Load Setup Defaults"オプションは最適なシステムパフォーマンスのための最適化された設定をロードします。最適設定はターボ設定より比較的安全です。全ての製品検証、互換・信頼性試験報告と製品品質は"Load Setup Defaults"に基付いています。通常使用でこの設定をお使いになるようお勧めします。"Load Setup Defaults"はマザーボード用では最も遅い設定ではありません。不安定な問題を検証する必要がある場合は、最も遅くて、より安全な設定をするために、手動で"Advanced BIOS Features"および"Advanced Chipset Features"のパラメーターを設定できます。



ターボデフォルトをロードする

"Load Turbo Defaults"オプションは"Load Setup Defaults"よりも優れたパフォーマンスを提供します。パフォーマンスのためにマザーボードを酷使うことを望むパワーユーザーの便宜のために提供されています。ターボ設定は詳細な信頼性および互換試験を全て実施していません。ある程度の構成とロードのみ試験しています。(例えば、VGAカードおよび一つDIMM/RIMMだけを持つシステム)。チップセットメニューの項目を十分に理解してから、ターボ設定を使用して下さい。

パスワードを設定する

パスワードはコンピューターの不正使用から守ります。パスワードを設定した場合、システムがブートやSetupにアクセスの前に現在のパスワードを尋ねてきます。

パスワードを設定するには：

1. プロンプトでパスワードを入力して下さい。パスワードは英数字 8 文字までです。文字を入力するときは、パスワードのボックスにアスタリスクが表示されます。
2. パスワードを入力してから、押して下さい。
3. 次のプロンプトで、パスワードを新しいパスワードを確認するために再度入力し、押します。パスワードの入力の後で、画面が自動的にメイン画面に変わります。

パスワードをオフにするには、パスワードを入力するよう求められるときに“Enter”を押して下さい。画面にパスワードがオフになったことを確かめるメッセージが現れます。

設定を保存して終了する

この機能はSetupを終える前に、自動的に全てのCMOS値を保存します。

設定を保存せずに終了する

CMOS値の変更を保存せずにSetupを終了するときはこの機能を使って下さい。新しい構成を保存したい場合はこのオプションを使用しないで下さい。

EEPROMデフォルトをロードする

“Load Setup Default”および“Load Turbo Default”以外でEEPROMのご自分の設定を保存するために“Save EEPROM Default”を使用できます。この項目を使って再度ロードできます。

EEPROMデフォルトを保存する

EEPROMのご自分の設定を保存するためにこの項目を使用できます。次に、CMOSのデータが失われてた場合や、以前の設定を忘れた場合に、再度ロードするために“Load EEPROM Default”を使用できます。

著作権

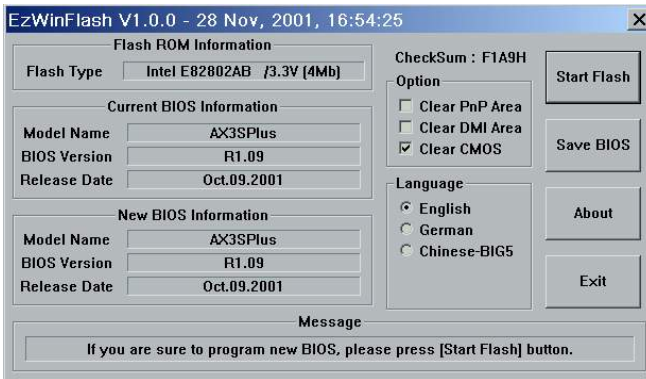
AOpen's R&Dが参画した当マザーボードの研究開発の全てのリスト

5.4 Windows環境でのBIOSアップグレード



AOpenの優れた研究開発能力により、全く新しいBIOSフラッシュウィザード-EzWinFlash-をお届けします。ユーザーの便宜を視野に入れ、EzWinFlashはBIOSバイナリコードとフラッシュモジュールの両方を統合しました。そのためユーザーがすることはウェブからダウンロードしたユーティリティををクリックするだけです。後は自動的にフラッシュのプロセスを完了するのをお手伝いします。EzWinFlashはマザーボードを検知し、BIOSのバージョンを確認し、システムを起こりえる失敗から守ってくれます。さらに、EzWinFlashは皆さんがお使いのどのWindows環境でも機能できるように考慮されていますので、Windows 95/98、98SE/ME、NT4.0/2000、あるいはWindows XPをお使いでもかまいません。

同時に、一層ユーザーフレンドリーな動作環境を提供するため、AOpenのEzWinFlashはBIOS設定の変更をより容易にできるように多言語機能を持つよう設計されています。



注意：システムをアップデートするときにはBIOSフラッシュの失敗というリスクがあります。もしマザーボードが安定して機能しているのであれば、最新のBIOS更新版で修正しなければならないようなバグはありません。その場合はBIOSのアップグレードをされないようお勧めします。アップグレードを計画されているのであれば、起こりうる失敗を回避するために、手元のマザーボードの正確なBIOS更新版を持っていることをお確かめください。

メモ：このBIOSの写真にあるモデル名は参照のためだけのものです。お手持ちのマザーボードと同一のモデルではないかもしれません。



以下のステップに従ってEzWinFlashでBIOSアップグレードの手順を完了できます。アップグレードを開始する前に、全てのアプリケーションを閉じておかれるよう強くお勧めします。

最新版のBIOSパッケージのZIPファイルをAOpen公式サイトからダウンロードしてください。(例：<http://english.aopen.com.tw/>)

ダウンロードしたBIOSパッケージ(例：WSGMAXII102.ZIP)をWindows環境の中で、WinZip (<http://www.winzip.com>)を使って解凍してください。

解凍されたファイルをフォルダーに保存してください。例：WSGMAXII102.EXE、WSGMAXII102.BIN

WSGMAXII102.EXE をダブルクリックします。するとEzWinFlashはマザーボードのモデル名とBIOSバージョンを検知します。BIOSが違っていれば、フラッシュのステップを続行することはできません。

メインメニューで言語を選択し、次にBIOSアップグレードの手順を開始するために[Start Flash]をクリックします。

EzWinFlashは全てのプロセスを自動的に完了します。ダイアログボックスが表示され、Windowsを再起動するよう促します。Windowsを再起動するために[YES]をクリックしてください。

BIOS設定画面に入るため、POSTの時点でキーを押します。“Load Setup Defaults”を選択し、次に“Save & Exit Setup”を選択すれば終了です。

フラッシュの過程で電源を切ったり、他のアプリケーションを実行したりしないよう強くお勧めします。



警告：新しいBIOSアップグレードはフラッシュしてしまうと元のBIOS設定を恒久的に置き換えてしまいます。システムが通常通りに使用する前にBIOS設定を再構成する必要があります。



5.5 Vivid BIOSテクノロジー



皆さんはPOST画面が古臭く、変わり映えしないのに辟易されたことはありませんか？それではPOST画面は堅苦しく、温かみがないという従来の考え方をやめてしまいましょう。明るくてカラフルなPOST画面を体験するため、AOpenが新しく開発したVividBIOSをお見せしましょう！

初期のグラフィックPOST画面とは違い（全画面を占領し、POSTの間はテキストの情報で覆われていた）、AOpenのVividBIOSはグラフィックスとテキストを別々に扱い、POSTの間に同時に実行させます。この革新的な設計により、VividBIOSはPOST画面で重要な情報を漏らすことなく、皆さんを美しく、優美な256色画面へとお連れします。

加えて、BIOS ROMのスペースが限られていることも別の大きな問題です。従来のBIOSは全てスペースを消費し、圧縮できないBitmapを表示するだけですが、AOpenはBIOSを次世代に向けてかなり調整し、より小さなGIFフォーマットや動的GIFアニメーションを認識できるようにしました。



Vivid BIOSはOpen JukeBox CD Playerとも基本的な技術を共有しています。同じEzSkinユーティリティを使ってVividBIOS画面を変更したり、お好みのOpen JukeBoxスキンをダウンロードすることもできます。この小さなロゴがマザーボードのダウンロードページ <http://english.aopen.com.tw/tech/ezskin/vivid.htm> のモデル名の横に表示されていれば、お手持ちのマザーボードがこの革新的な機能をサポートしていることの保証です！

6章 ドライバーをインストールする



ドライバーやユーティリティのインストールはインストールウィザードやステップに従って繰り返し行う作業だとお考えかもしれませんが。それでは、EzInstallがどれほど“簡単に”それをやってのけるかに驚かれるかもしれません。ウィザードやステップはなく、皆さんにはただ一回クリックして頂くだけです。クリックしたら終わりです。EzInstallはインストールを簡単にし、誰でも間違えずにできるようにしてくれます！

CDを入れると、AOpenの“ようこそ”ページと支社情報が出てきます。

まず、必要なドライバーのために左側のインストールドライバーのアイコンをクリックしてください。

次に、お好みのユーティリティのために右側のインストールユーティリティのアイコンをクリックしてください。

実質的にはこれだけです。しかしCDの内容をブラウズしたり、もっと情報を入手するためにReadmeを見たり、CDインストールを終了したりできます。

クリックしてオンラインマニュアルをインストール

The screenshot shows the AOpen EzInstall Welcome screen. On the left, there are several circular icons representing different installation options: a monitor and mouse (Driver), a person with a box (Utility), a CD with a magnifying glass (Browse CD content), a document (Readme), and a CD with an arrow (Exit CD). On the right, there is a stack of books icon labeled 'Install User manual'. The main content area is titled 'Welcome' and includes contact information for various AOpen entities. A callout box on the right points to the contact information, labeled 'AOpenの支社情報'.

AOpen

Welcome

Install User manual

Thank you for choosing AOpen i915GMm-HFS

Contact us

AOpen Inc. http://www.aopen.com.tw TEL: +886-2-3789-5888 FAX: +886-2-3789-5899	AOpen Computer GmbH. http://www.aopen.com.de TEL: +49-1805-559191 FAX: +49-2102-157799
AOpen America Inc. http://english.aopen.com.tw TEL: +1-510-489-8928 FAX: +1-510-489-1998	AOpen Japan Inc. http://www.aopen.co.jp TEL: +81-048-290-1800 FAX: +81-048-290-1820
AOpen Computer B.V. http://www.aopen.nl TEL: +31-73-645-9516 FAX: +31-73-645-9604	AOpen International Co., Ltd. http://www.aopen.com.cn TEL: +86-21-6225-8622 FAX: +86-21-6225-7926

EzInstall

ドライバー

ユーティリティ

CDの内容をブラウズ

Readme

Exit CD

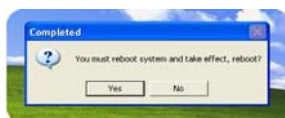
AOpenの支社情報

6.1 ドライバーをインストールする

Installing driver（ドライバーをインストールする）というページから分かるように、EzInstallはマザーボードのために必要なものを拾い上げてくれました。皆さんがすることはただ“GO”をクリックするだけで、その後にステップはありません。リストに挙がっているドライバーの中で、灰色でチェックされているのは必要なドライバーで、皆さんが除外することはできません。赤色のチェックは今回必要でないなら無効にできるものです。



アイコンを押すと“Install Driver”ページが出ます。メインページに戻るために“Back”を押すこともできます。



一度“GO”をクリックするとEzInstall は自動的にインストール手順を実行してから、再起動ダイアログを出します。（ドライバーやユーティリティーの中には再起動の部分をスキップするものもあります。）

6.2 ユーティリティーをインストールする

Installing Utilities（ユーティリティーをインストールする）はドライバーのインストールとほとんど同じです。AOpenはシステムを管理するために、たくさんの使いやすく強力なユーティリティーを提供しています。数多くの素晴らしいユーティリティーが列挙されていることがお分かりになるでしょう。皆さんにはただ“GO”をクリックして頂くだけで、あとは複雑なステップはなしにシステムにユーティリティーがあつという間にインストールされます。



アイコンを押すと選択できるよう“Install Utilities”ページが出ます。メインページに戻るために“Back”を押すこともできます。





TroubleShooting



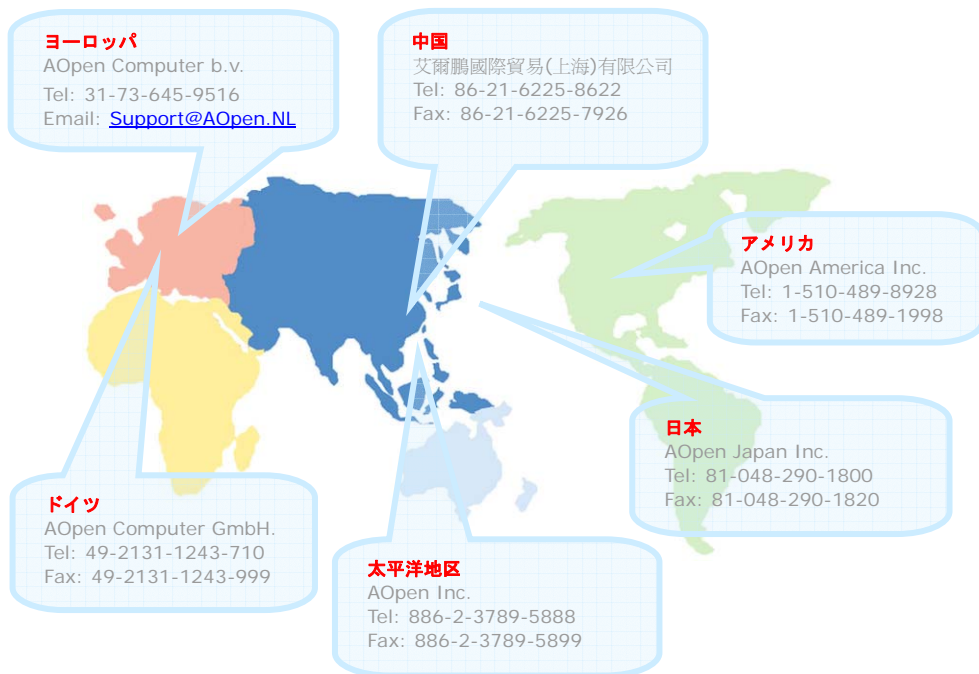
8章 テクニカルサポート

ユーザーの皆様へ、

AOpen製品をお買上げいただき、ありがとうございます。製品を <http://www.aopen.com> で登録されると、Club AOpenのゴールドメンバーとなり、以後の質の高いサービスをご利用いただけます。ユーザーの皆様には質の高いサービスを継続的に提供するため以下の手順をご参考になり、お買上げ地域にある当社の支社からのサポートをお受けください。ユーザー皆様のご協力により、効率的かつ最良のサービスが皆様に引き続きご利用いただけます。

ご協力に感謝いたします。

AOpenテクニカルサポートチーム



ヨーロッパ Eメール:

Support@AOpen.NL

太平洋地区:

<http://www.aopen.com.tw/tech/default.htm>

中国:

<http://www.aopen.com.cn/tech/default.htm>

ドイツ:

<http://www.aopencom.de/tech/default.htm>

アメリカ:

<http://usa.aopen.com/tech/default.htm>

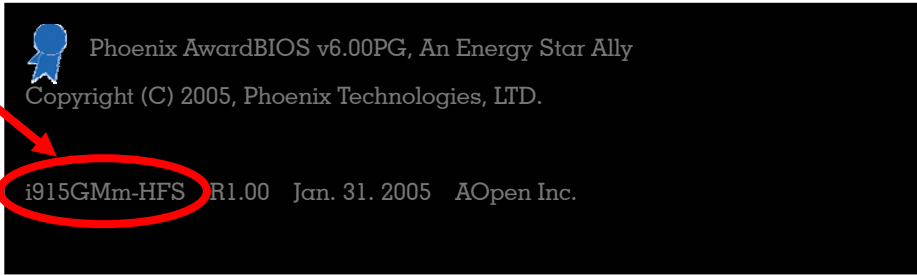
日本:

<http://aopen.jp/tech/index.html>

型式名とBIOSバージョン

型式名およびBIOSバージョンは最初の起動画面(POST画面)の左上に表示されます。

以下が一例です。



i915GMm-HFSはマザーボードの型式名で、R1.00はBIOSバージョンです。

お買い上げのマザーボードの登録

AOpen製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。お買い上げのマザーボードは<http://club.aopen.com.tw/productreg/>からご登録いただきますと、Club AOpenの会員となり、AOpenからの質の高いサービスが優先的にご利用いただけます。また、スロットマシンゲームに参加してAOpenからの景品獲得もできます。登録の際には下記の情報をご用意ください。型式名、パーツ番号(P/N)、シリアル番号(S/N)およびお買い上げ日。パーツ番号およびシリアル番号はバーコードラベルに印刷されています。バーコードはパッケージ外側またはPCBのコンポーネント側に付いています。以下が一例です。



パーツNo.

シリアルNo.

P/N: 91.88110.201はパーツNo, S/N: 91949378KN73はシリアルNo.

Phoenix-Award BIOSエラーメッセージ

エラー音	メッセージ
1 回短く(・)	システムのブートが正常
1 回長く - 1 回短く(- ・)	DRAMエラー
1 回長く - 2 回短く(- ・ ・)	ディスプレイカードかモニターの接続エラー
1 回長く - 3 回短く(- ・ ・ ・)	キーボードエラー
長いエラーが継続(-----)	DRAMが正しく装着されていない



Technical Support

Online Manual: To download manual, please log on and then select your preferred language. Under "Type" directory, choose "Manuals" to go to our manual database. You can also find the manual and EIG in AOpen Bonus Pack.
<http://download.aopen.com.tw/downloads>

Test Report: We recommend you to choose board/card/device from the compatibility test reports for assembling your PC. It may prevent incompatibility problems.
<http://english.aopen.com.tw/tech/report/default.htm>

FAQ: Here we list problems that users often encounter and FAQ (Frequently Asked Questions). You may select your preferred language after log on, and may be able to find a solution to your problem.
<http://club.aopen.com.tw/faq/>

Download Software: After log on and having language selected, you may get the latest updated BIOS/utility and drivers you need under "Type" directory. In most case, newer versions of drivers and BIOS have solved earlier bugs or compatibility problems.
<http://download.aopen.com.tw/downloads>

eForum: AOpen eForum is provided to discuss our products with other users, in which your problem probably had been discussed before or will be answered. After log on, you may select your preferred language under "Multi-language".
<http://club.aopen.com.tw/forum>

Contact Us: Please prepare detail system configuration and error symptom before contacting us. The part number, serial number and BIOS version are also very helpful.

Contact Distributors/Resellers: We sell our products through resellers and integrators. They should know your system configuration very well and should be able to solve your problem efficiently and provide important reference for you.